

金融庁委託調査

貸金業利用者に関する調査・研究
<調査結果>

2020年3月27日

1. 調査概要

I. 調査概要 1 調査設計

調査手法	インターネット調査
抽出母集団	インテージ・ネットモニター
調査地域	全国
調査対象	<ul style="list-style-type: none"> ・18～70代の男女 ・本人または家族が以下の職業に従事している場合は対象外 出版・印刷関連、新聞・放送業、マスコミ、広告、市場調査、金融関係(銀行/信託/信金/信組/政府系金融信販/消費者金融/その他金融/証券、商品取引/ 生命保険/損害保険)
調査期間	<input type="checkbox"/> スクリーニング調査 2020年3月6日(金)～3月16日(月) <input type="checkbox"/> 本調査 2020年3月16日(月)～3月19日(木)
調査設計	<input type="checkbox"/> スクリーニング調査： 回収目標サンプル数 最大70,000サンプル <グループ1> 性別/年代/エリアで母集団準拠を行った50,000サンプル程度 ※母集団準拠については、平成27年度の国勢調査結果にその後の人口動向を加味したものを母集団として使用 <グループ2> 「農林漁業」「専門職」「個人事業主」従事者、「会社員」「派遣・契約社員」約20,000サンプル程度 <input type="checkbox"/> 本調査： 回収目標サンプル数：5,000サンプル程度 <グループA> 3年以内借入経験者 3,000サンプル <グループB> 3年以内借入経験者以外 2,000サンプル <グループC> 「農林漁業」「専門職」「個人事業主」従事者、「会社員」「派遣・契約社員」500～1000サンプル程度 (※ 上記A、Bに含まれる)
有効回収サンプル数	<input type="checkbox"/> スクリーニング調査 <グループ1> 性別/年代/エリアで母集団準拠を行った、53,675サンプル <グループ2> 「農林漁業」325サンプル、「専門職」1,351サンプル、「個人事業主」6,902サンプル、 <input type="checkbox"/> 本調査 <グループA> 3年以内借入経験者 3,114サンプル (うち、グループ1由来 2,514サンプル、グループ2由来 600サンプル) <グループB> 3年以内借入経験者以外 2,142サンプル (うち、グループ1由来 2,083サンプル、グループ2由来 59サンプル) <グループC> 659サンプル(「農林漁業」55サンプル、「専門職」66サンプル、「個人事業主」452サンプル、 「会社員」65サンプル、「派遣・契約社員」21サンプル)

(注)グループCについては、調査結果の精度を高める観点から、いくつかの属性においてサンプルの補填を行っているもの。

1. 調査概要 2 本調査 有効回収数

- 本報告書では、下表「ランダムサンプル」※1をベースに分析。
- ただし、職業別に分析を行う際にのみ、「ランダムサンプル」に「補填サンプル」※2を加えたサンプルをベースとして分析。

※1 「ランダムサンプル」とは、市場の構成を反映させるため、スクリーニング時に性別／年代／エリア(地域)別に市場人口構成比に準じた割付を行い回収したサンプルです。

※2 「補填サンプル」とは、職業別分析の際に安定したサンプル数を確保するため、ランダムサンプルとは別枠でスクリーニングを行い獲得したサンプルです。

	ランダムサンプル					補填サンプル				
	TOTAL	3年以内 借入経験者	3年以内 借入経験者 以外 計	うち、 借入経験あり (3年より前)	うち、 借入経験なし	TOTAL	3年以内 借入経験者	3年以内 借入経験者 以外 計	うち、 借入経験あり (3年より前)	うち、 借入経験なし
TOTAL	4597	2514	2083	201	1882	659	600	59	7	52
会社員	1614	1086	528	56	472	65	65	0	0	0
経営者・役員	102	65	37	9	28					
個人事業主(自営業、SOHO含む)	321	204	117	21	96	452	452	0	0	0
公務員(教職員含む)	169	92	77	5	72					
専門職(個人事業主は除く)	95	61	34	2	32	66	51	15	2	13
農林漁業	25	13	12	4	8	55	11	44	5	39
派遣・契約社員	293	191	102	18	84	21	21	0	0	0
パート・アルバイト・フリーター	714	400	314	33	281					
専業主婦／主夫	561	144	417	19	398					
無職	516	172	344	32	312					
学生	138	61	77	0	77					
その他	49	25	24	2	22					

1. 調査概要 3 対象者グループの定義補足

- 『3年以内借入経験者』

最近3年以内に、「クレジットカード会社のキャッシング・カードローン」、「消費者金融からの借入れ」、「商工ローンからの借入れ」、「手形割引業者からの借入れ」のいずれかの利用経験がある方

- 『3年以内借入経験者、かつ現在借入残高あり』

最近3年以内に、「クレジットカード会社のキャッシング・カードローン」、「消費者金融からの借入れ」、「商工ローンからの借入れ」、「手形割引業者からの借入れ」のいずれかの利用経験があり、かつ、現在そのいずれかの借入残高が残っている方

- 『3年以内借入経験者、かつ現在消費者金融に借入残高あり』

最近3年以内に、「クレジットカード会社のキャッシング・カードローン」、「消費者金融からの借入れ」、「商工ローンからの借入れ」、「手形割引業者からの借入れ」のいずれかの利用経験があり、かつ、現在「消費者金融からの借入れ」の借入残高が残っている方

- 『借入経験なし』

過去、「クレジットカード会社のキャッシング・カードローン」、「消費者金融からの借入れ」、「商工ローンからの借入れ」、「手形割引業者からの借入れ」のいずれについても利用経験がない方

I. 調査概要 4 補正処理(ウェイトバック)について

- スクリーニング調査結果より、「3年以内借入経験者」が全体に占める割合は7.4%。この値が全体に占める「3年以内借入経験者」の比率と推計される(表1)。
- ただし、本調査は「3年以内借入経験者」を約3,000サンプル、「3年以内借入経験者以外」を約2,000サンプルとして設計を行ったため、「3年以内借入経験者」が本調査回収サンプル総数の半数以上を占め、実際の構成よりも大きな比率を占めている。
- よって、セーフティネットの認知など、「3年以内借入経験者」と、「3年以内借入経験者以外」を足した数値をみる際には、3年以内借入経験者の比率を市場構成比にあわせるための補正処理(ウェイトバック)を実施。
※本報告書においては、ウェイトバックを行った数値を記載している箇所には「**ウェイトバックあり**」と注記を付している。

【表1】スクリーニング／本調査回収結果における、「3年以内借入経験者」の割合

スクリーニング調査回収結果(母集団準拠サンプルのみ)

	TOTAL	3年以内借入経験者	3年以内借入経験者以外
サンプル数	53,675	3,981	49,694
構成比	100.0%	7.4%	92.6%

【表2】ウェイトバック値の算出方法

	① 回収 サンプル数	② SCR回収結果より 母集団準拠した際 の比率	③ 回収サンプル数を SCR回収結果の比 率に合わせる (①の合計×②)	ウェイトバ ック値 (③÷①)
合計	4,597	1	4,597	-
3年以内 借入経験者	2,514	0.074	340	0.1353134
3年以内 借入経験者以外	2,083	0.926	4,257	2.0436015

本調査回収結果(補填サンプルを除く)

	TOTAL	3年以内借入経験者	3年以内借入経験者以外
サンプル数	4,597	2,514	2,083
構成比	100.0 %	54.7%	45.3%

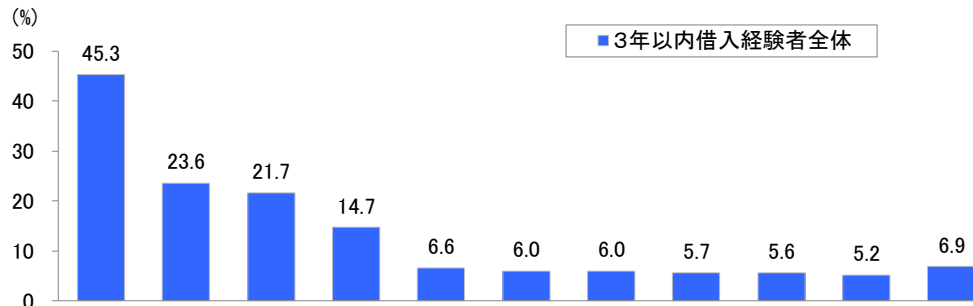
II. 調査結果のまとめ

II. 調査結果のまとめ

3年以内借入経験者の実態：借入目的（クレジットカード会社のキャッシング・カードローン利用者）

■ 3年以内借入経験者のうち、クレジットカード会社のキャッシング・カードローン利用者の利用目的の上位3位は、「生活費不足の補填」45.3%、「欲しいもの購入への資金不足の補填」23.6%、「クレジットカードの支払い資金不足の補填」21.7%。（図表1）

【図表1】クレジットカード会社のキャッシング・カードローン利用者の利用目的（ベース：3年以内借入経験者）



＜傾向＞

- 年収別では、年収が低い方が「生活費不足の補填」への回答割合が高くなる傾向。
- 職業別では、全体と比べ『個人事業主』『派遣・契約社員』『パート・アルバイト・フリーター』は「生活費不足の補填」の回答割合が高い。

サンプル数 (n)	生活費不足の補填	欲しいもの購入への資金不足の補填	クレジットカードの支払い資金不足の補填	遊ばないためのお金の貯蓄	医療費の支払いのため	返済資金不足への対応	他の資金不足への対応	冠婚葬祭の支払い	手元資金不足への対応	学費の支払いのため	住宅ローンの返済	その他
3年以内借入経験者全体	2,103	45.3	23.6	21.7	14.7	6.6	6.0	6.0	5.7	5.6	5.2	6.9
0円	141	48.2	27.7	21.3	13.5	9.9	8.5	7.8	4.3	7.1	5.0	6.4
1～300万円以下	1,029	49.0	23.0	22.1	12.3	7.1	5.2	5.5	5.2	6.4	3.9	6.8
301～500万円以下	554	42.8	24.7	22.0	16.1	5.4	6.9	6.1	6.7	4.5	7.0	6.1
501～1000万円以下	333	38.7	22.2	19.8	20.7	5.4	6.6	6.0	6.3	5.1	6.6	8.1
1001万円以上	46	30.4	19.6	26.1	13.0	8.7	4.3	8.7	4.3	0.0	4.3	13.0
会社員	950	44.7	23.2	20.6	16.6	5.7	5.4	6.5	6.4	4.8	5.2	6.4
経営者・役員	58	37.9	24.1	20.7	19.0	10.3	10.3	8.6	3.4	5.2	6.9	0.0
個人事業主	567	51.7	18.5	24.3	12.3	6.5	6.7	4.8	3.5	3.7	5.3	9.0
公務員	83	30.1	24.1	27.7	14.5	6.0	4.8	7.2	4.8	9.6	9.6	6.0
専門職	99	36.4	28.3	23.2	12.1	6.1	7.1	7.1	1.0	7.1	9.1	8.1
農林漁業	20	45.0	15.0	50.0	10.0	5.0	5.0	5.0	0.0	5.0	10.0	15.0
派遣・契約社員	174	51.7	28.2	25.3	13.8	6.9	9.2	4.0	3.4	4.6	5.2	4.6
パート・アルバイト・フリーター	325	52.3	24.0	19.7	10.5	5.8	5.8	3.7	7.1	6.8	3.7	6.5
専業主婦／主夫	134	47.8	22.4	23.1	7.5	6.7	3.7	7.5	3.7	5.2	3.0	9.7
無職	149	37.6	24.2	23.5	16.8	12.1	3.4	6.0	9.4	5.4	6.0	8.7
学生	47	23.4	36.2	12.8	25.5	14.9	6.4	8.5	4.3	17.0	6.4	14.9

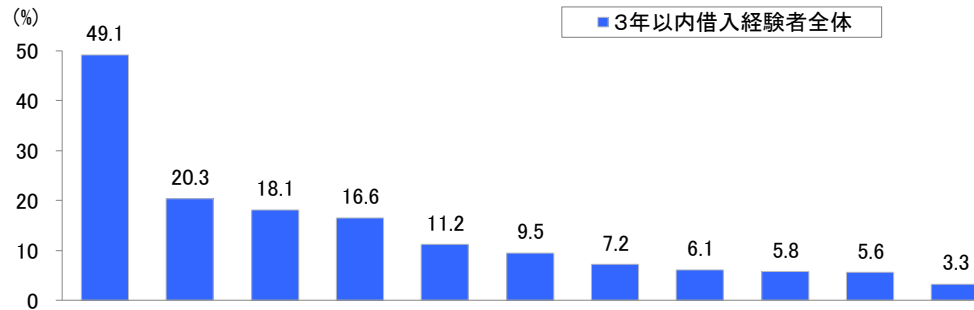
■ 3年以内借入経験者全体の比率より5ポイント高い
 ■ 3年以内借入経験者全体の比率より5ポイント低い

II. 調査結果のまとめ

3年以内借入経験者の実態：借入目的（消費者金融利用者）

■ 3年以内借入経験者の消費者金融の利用目的上位3位は、「生活費不足の補填」49.1%、「クレジットカードの支払い資金不足の補填」20.3%、「欲しいもの購入への資金不足の補填」18.1%となっている。（図表2）

【図表2】 消費者金融利用者の利用目的（ベース：3年以内借入経験者）



	サンプル数 (n)	生活費不足の補填	クレジットカードの支払い資金不足の補填	欲しいもの購入への資金不足の補填	遊びのためのお金の確保	返済資金不足への対応	手元資金不足への対応	冠婚葬祭費の支払い	学費の支払い	医療費の支払い	住宅ローンの返済	その他
3年以内借入経験者全体	823	49.1	20.3	18.1	16.6	11.2	9.5	7.2	6.1	5.8	5.6	3.3
年収別	0円	50	44.0	18.0	14.0	14.0	8.0	8.0	10.0	6.0	0.0	8.0
	1～300万円以下	393	51.7	20.1	17.0	12.5	10.9	7.6	5.6	5.6	6.1	3.8
	301～500万円以下	235	50.6	21.3	17.0	20.0	10.6	12.3	8.9	3.4	4.7	2.6
	501～1000万円以下	131	42.0	18.3	25.2	25.2	14.5	11.5	6.9	2.3	8.4	0.8
	1001万円以上	14	35.7	35.7	14.3	7.1	7.1	0.0	14.3	0.0	7.1	7.1
職業別	会社員	447	46.1	21.7	18.3	18.3	12.3	11.4	8.7	5.1	5.6	2.2
	経営者・役員	18	38.9	16.7	27.8	16.7	11.1	5.6	0.0	5.6	0.0	5.6
	個人事業主	142	52.8	25.4	12.0	12.7	12.7	7.0	6.3	4.2	5.6	6.3
	公務員	21	28.6	19.0	28.6	23.8	9.5	0.0	14.3	4.8	19.0	0.0
	専門職	32	50.0	18.8	25.0	21.9	3.1	9.4	12.5	0.0	15.6	0.0
	農林漁業	6	50.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7	16.7
	派遣・契約社員	76	59.2	28.9	18.4	13.2	14.5	10.5	7.9	7.9	5.3	3.9
	パート・アルバイト・フリーター	128	61.7	18.8	12.5	13.3	7.8	5.5	4.7	5.5	7.8	3.9
	専業主婦／主夫	23	52.2	0.0	4.3	13.0	8.7	13.0	0.0	8.7	4.3	13.0
	無職	38	52.6	10.5	13.2	15.8	13.2	7.9	5.3	10.5	10.5	2.6
	学生	20	25.0	10.0	35.0	15.0	5.0	10.0	0.0	20.0	15.0	5.0

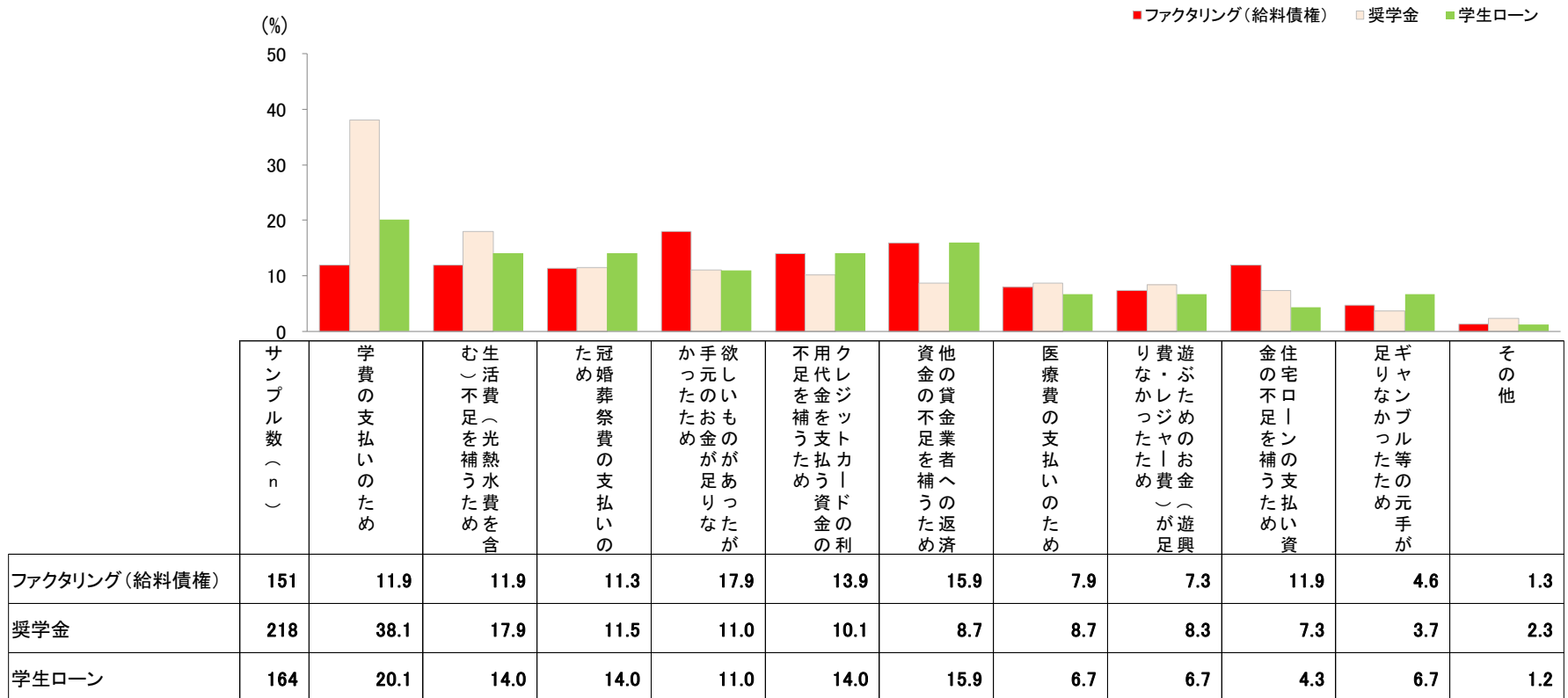
■ 3年以内借入経験者全体の比率より5ポイント高い
■ 3年以内借入経験者全体の比率より5ポイント低い

II. 調査結果のまとめ

3年以内借入経験者の実態：借入目的（ファクタリング、奨学金、学生ローン利用者）

- 3年以内借入経験者のうち、ファクタリング（給料債権）の利用目的上位は、「欲しいもの購入への資金不足の補填」17.9%、「他の貸金業者への返済資金不足の補填」15.9%。（図表3）
- 奨学金の利用目的上位は、「学費」が38.1%、「生活費不足の補填」が17.9%。（図表3）
- 学生ローンの利用目的上位は、「学費」が20.1%、「他の貸金業者への返済資金不足の補填」15.9%。（図表3）

【図表3】ファクタリング、奨学金、学生ローンの利用目的（ベース：各3年以内借入経験者）



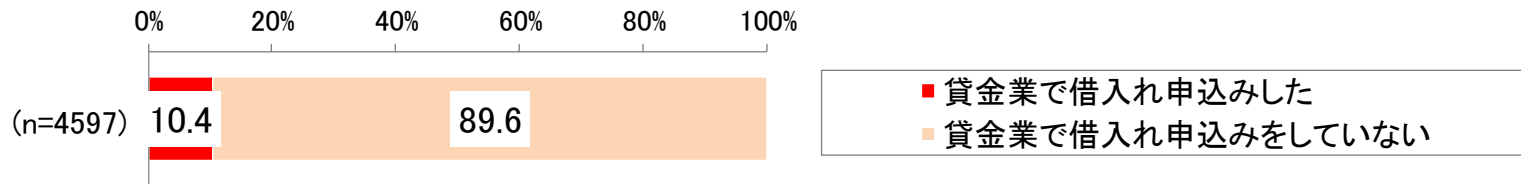
※奨学金で降順ソート

II. 調査結果のまとめ

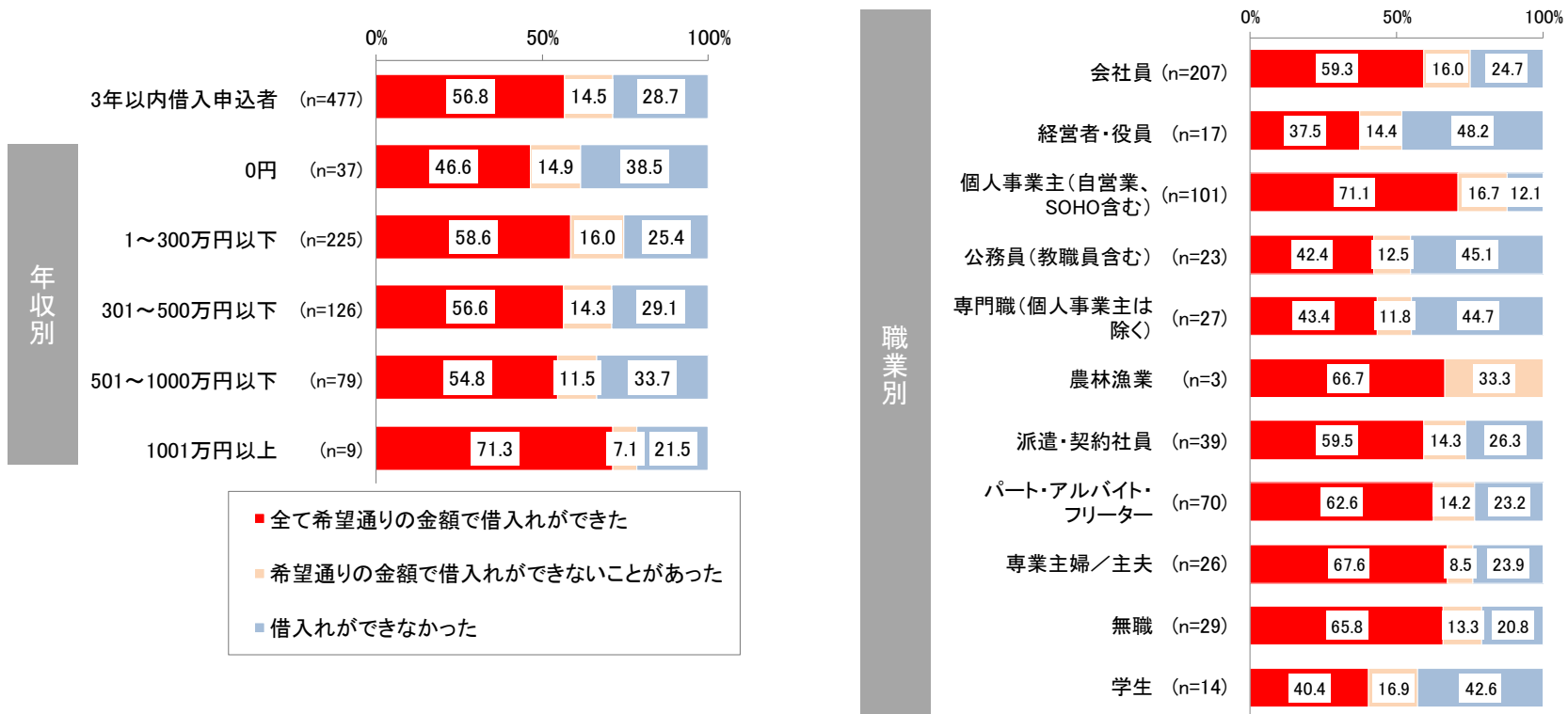
最近3年以内の借入状況：希望通りの借入れ有無 ①

■ 最近3年以内に「貸金業で借入申込みをした」のは10.4%、そのうち「全て希望どおりの金額で借入れができた」のは56.8%。(図表4、図表5)

【図表4】最近3年以内の借入れ申込み有無(ベース:全数) ※ウェイトバックあり



【図表5】最近3年以内の借入れ申込みと希望金額借入有無(ベース:3年以内貸金業からの借入申込者) ※ウェイトバックあり



II. 調査結果のまとめ

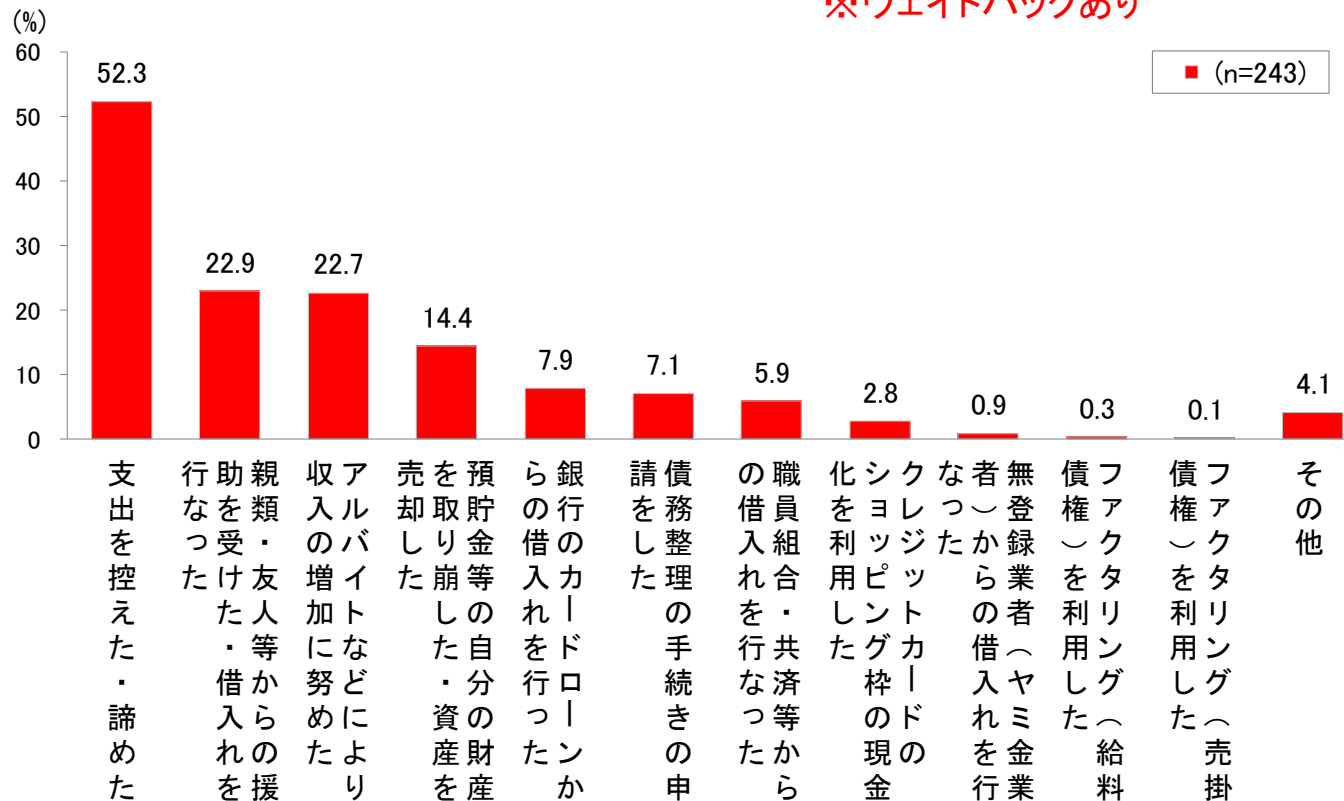
最近3年以内の借入状況：希望通りの借入れ有無 ②

■ 希望通りの借入れができなかった時の対応については、「支出を控えた・諦めた」が最も多く52.3%、次いで、「親類・友人等からの援助を受けた・借入れを行った」が22.9%「アルバイトなどにより収入の増加に努めた」が22.7%。一方、「クレジットカードのショッピング枠の現金化を利用した」が2.8%、「無登録業者（ヤミ金融）からの借入れを行った」が0.9%。（図表6）

【図表6】最近3年以内の借入不可・希望金額借入不可時の対応

(ベース:3年以内貸金借入申込者で希望通りの借入不可の経験あり)

※ウェイトバックあり



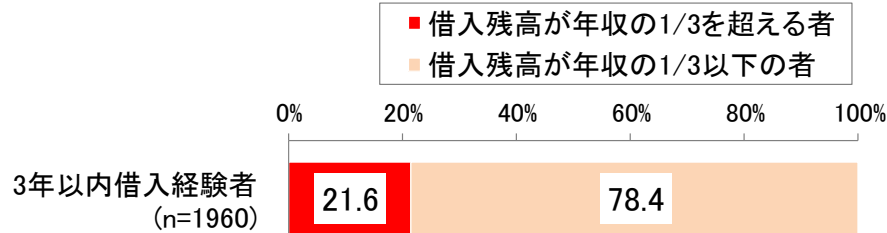
II. 調査結果のまとめ

借入残高が年収の1/3を超える者の割合／現在の借入残高 ①

- 3年以内借入経験者で現在借入残高がある者のうち、借入残高が年収の1/3を超える者※は21.6%。(図表7)
- 年収別で見ると、年収が低くなるほど借入残高が年収の1/3を超える者※に該当する割合が高い。(図表8)
- 現在消費者金融に借入残高がある者にしぼると、借入残高が年収の1/3を超える者※は29.3%。(図表9)

※制度上の総量規制の適用除外や例外については、この調査では考慮していない。

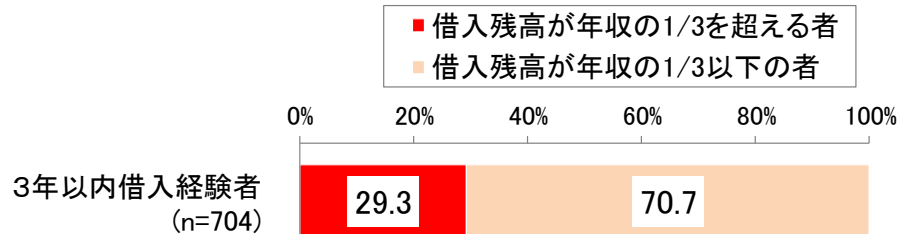
【図表7】借入残高が年収の1/3を超える者の割合
(ベース:3年以内借入経験者、かつ現在借入残高あり)



【図表8】借入残高が年収の1/3を超える者の割合 年収／職業別
(ベース:3年以内借入経験者、かつ現在借入残高あり)

	TOTAL	借入残高が年収の1/3を超える者 (%)
0円	103	100.0
1～300万円以下	1013	24.7
301～500万円以下	528	9.7
501～1000万円以下	276	5.8
1001万円以上	40	7.5

【図表9】借入残高が年収の1/3を超える者の割合
(ベース:3年以内借入経験者、かつ現在消費者金融に借入残高あり)



職業別	TOTAL	借入残高が年収の1/3を超える者 (%)
会社員	898	14.7
経営者・役員	56	12.5
個人事業主(自営業、SOHO含む)	520	41.9
公務員(教職員含む)	64	4.7
専門職(個人事業主は除く)	86	15.1
農林漁業	19	36.8
派遣・契約社員	177	22.0
パート・アルバイト・フリーター	324	23.8
専業主婦／主夫	103	56.3
無職	135	28.9
学生	46	28.3

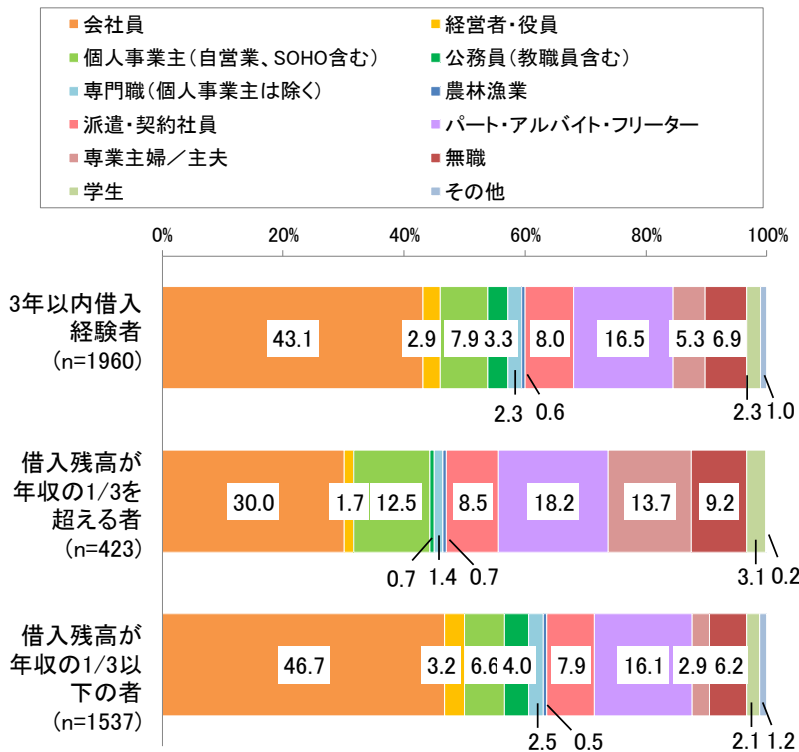
II. 調査結果のまとめ

借入残高が年収の1/3を超える者の特徴 ②

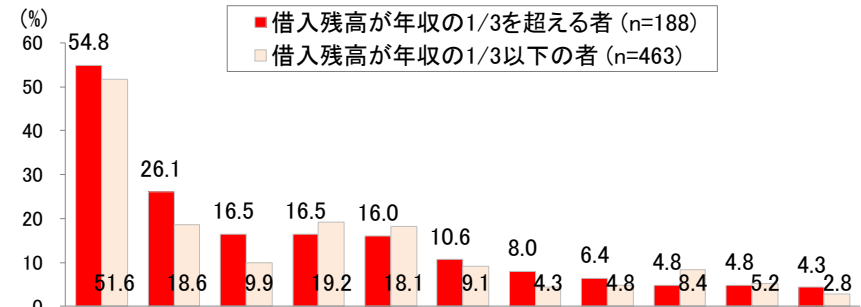
- 借入残高が年収の1/3を超える者※の職業構成を見ると、全体に比べ、『個人事業主』と『専業主婦／主夫』の割合が高い。(図表10)
- 消費者金融に借入残高のある借入残高が年収の1/3を超える者※の借入目的は、借入残高が年収の1/3以下の者に比べ、「クレジットカードの利用代金支払い資金の補填」「他の貸金業者への返済資金不足の補填」が高い。(図表11)

※制度上の総量規制の適用除外や例外については、この調査では考慮していない。

【図表10】借入残高が年収の1/3を超える者の職業
(ベース:3年以内借入経験者、かつ現在借入残高あり)



【図表11】借入残高が年収の1/3を超える者の消費者金融借入目的
(ベース:消費者金融から3年以内借入経験あり、かつ現在借入残高あり)



借入目的	3年以内借入経験者 (n)	借入残高が年収の1/3を超える者 (n)	借入残高が年収の1/3以下の者 (n)
クレジットカードの利用代金支払い資金の補填	651	188	463
他の貸金業者への返済資金不足の補填	52.5	54.8	51.6
他の貸金業者への返済資金不足の補填	20.7	26.1	18.6
他の貸金業者への返済資金不足の補填	11.8	16.5	9.9
他の貸金業者への返済資金不足の補填	18.4	16.5	19.2
遊んだためのお金(遊興費・レジャー費)が足りなかった	17.5	16.0	18.1
遊んだためのお金(遊興費・レジャー費)が足りなかった	9.5	10.6	9.1
住宅ローンなどの支払い資金不足を補うため	5.4	8.0	4.3
医療費の支払いのため	5.2	6.4	4.8
冠婚葬祭費の支払いのため	7.4	4.8	8.4
学費の支払いのため	5.1	4.8	5.2
その他	3.2	4.3	2.8

II. 調査結果のまとめ

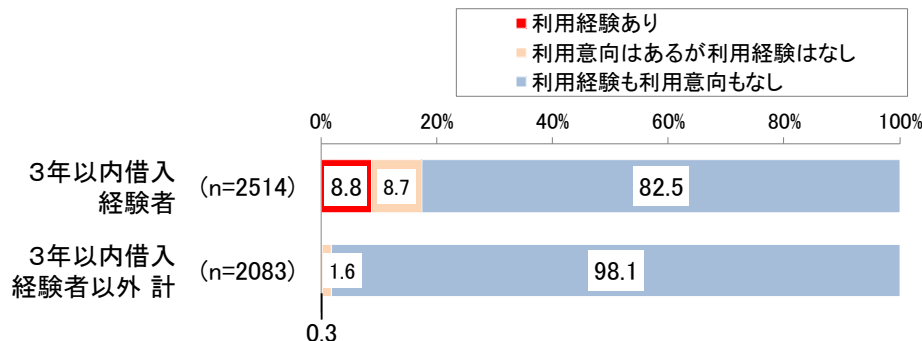
『無登録業者(ヤミ金融)』の利用経験

■ 3年以内借入経験者のうち、『無登録業者(ヤミ金融)』の「利用経験あり」は8.8%、「利用意向があったが利用経験なし」は8.7%。(図表12)

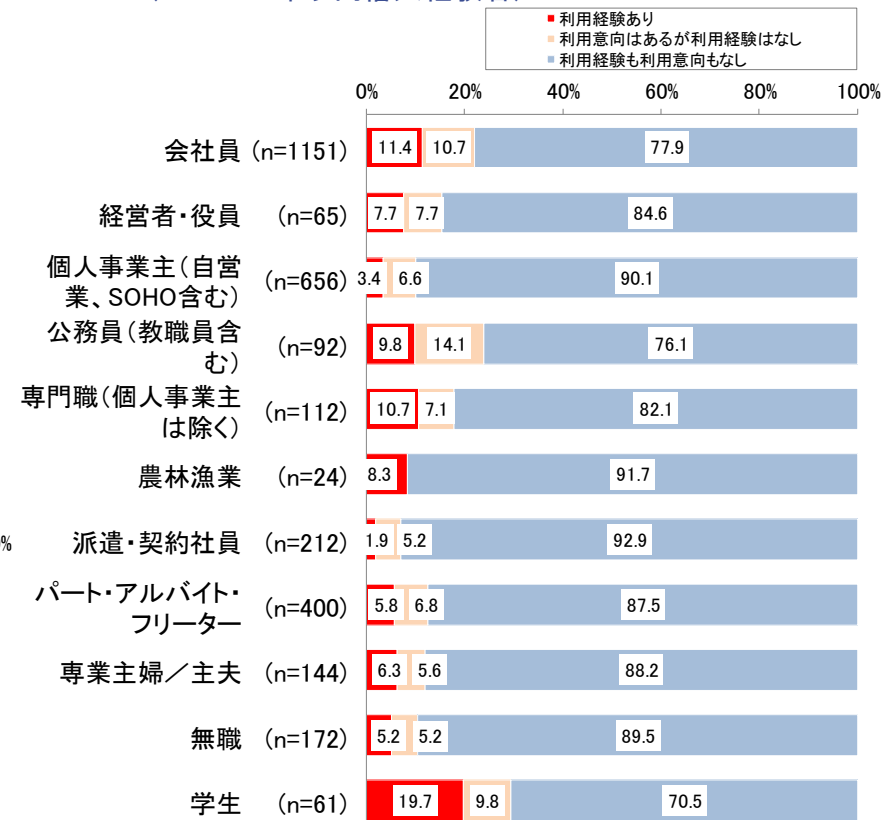
■ 3年以内借入経験者で現在借入残高のある者で借入残高が年収の1/3を超える者※のうち、『無登録業者(ヤミ金融)』の「利用経験あり」は9.0%、「利用意向があったが利用経験なし」は12.8%。(図表14)

※制度上の総量規制の適用除外や例外については、この調査では考慮していない。

【図表12】無登録業者(ヤミ金融)の利用経験(ベース:全数)

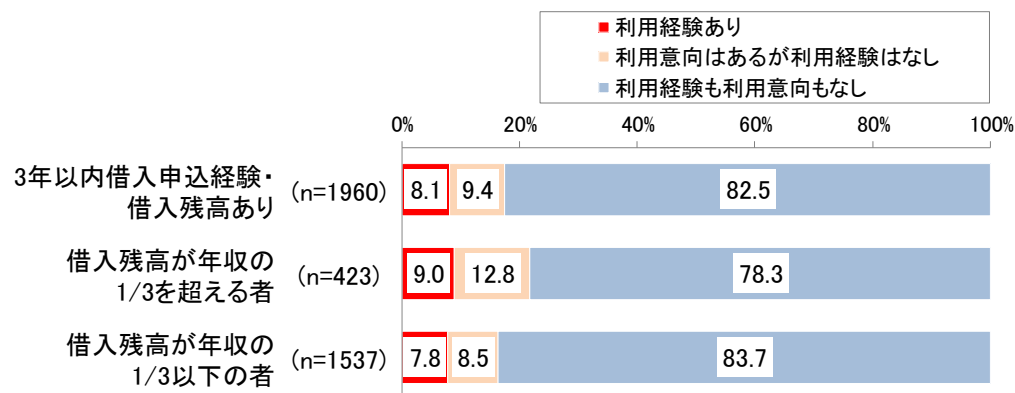


【図表13】無登録業者(ヤミ金融)の利用経験:職業別(ベース:3年以内借入経験者)



【図表14】無登録業者(ヤミ金融)の利用経験:借入残高が年収の1/3超・以下別

(ベース:3年以内借入経験あり、かつ現在借入残高あり)

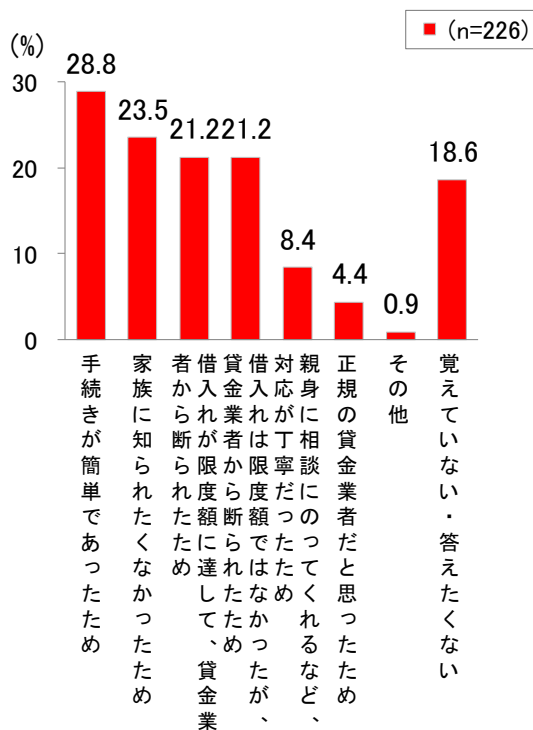


II. 調査結果のまとめ

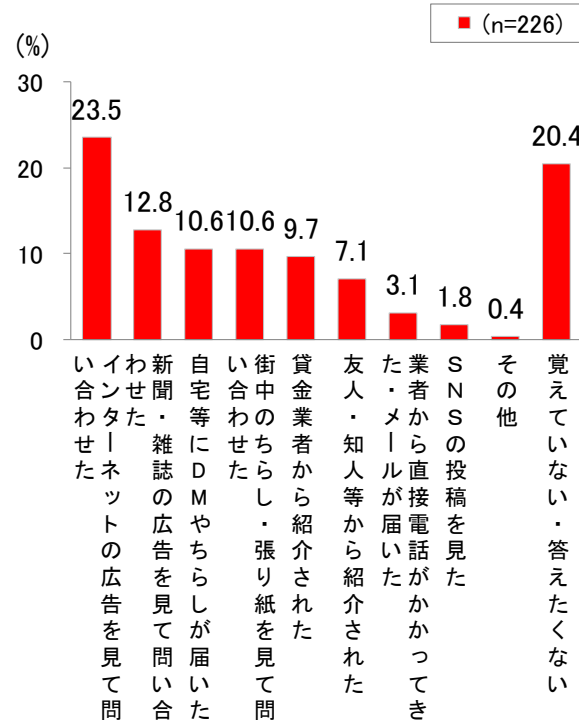
『無登録業者(ヤミ金融)』の利用経験

- 『無登録業者(ヤミ金融)』利用経験者の利用理由について、「手続きが簡単であったため」が最も高く28.8%、次いで「家族に知られなくなかったため」が23.5%。(図表15)
- 無登録業者(ヤミ金融)との接触のきっかけは、「インターネットの広告を見て問い合わせた」が23.5%で最多。(図表16)
- 無登録業者(ヤミ金融)を利用した感想は、「金利の負担が重くなかった」が20.4%、「金利の負担が重かった」が19.5%、「生活(事業)が悪化した」が18.1%で上位。(図表17)

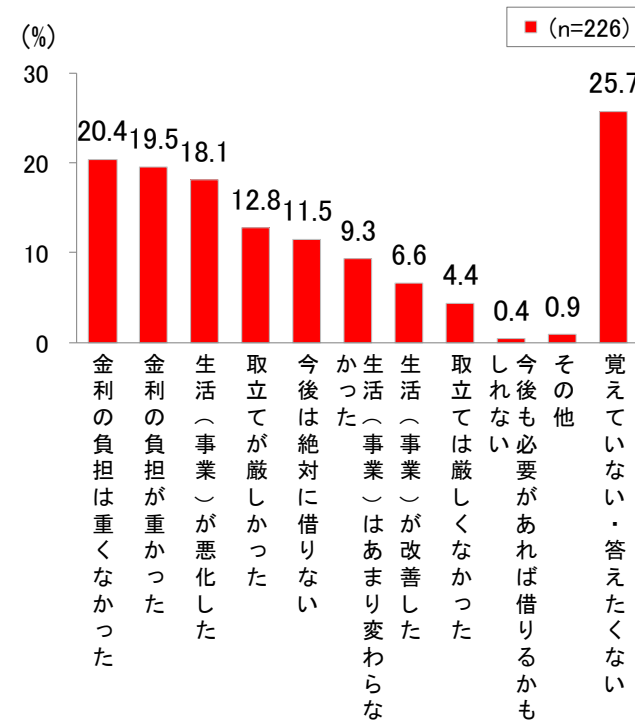
【図表15】無登録業者(ヤミ金融)の利用理由
(ベース:無登録業者借入経験者)



【図表16】無登録業者(ヤミ金融)との接触契機
(ベース:無登録業者借入経験者)



【図表17】無登録業者(ヤミ金融)から借入れを行った感想
(ベース:無登録業者借入経験者)

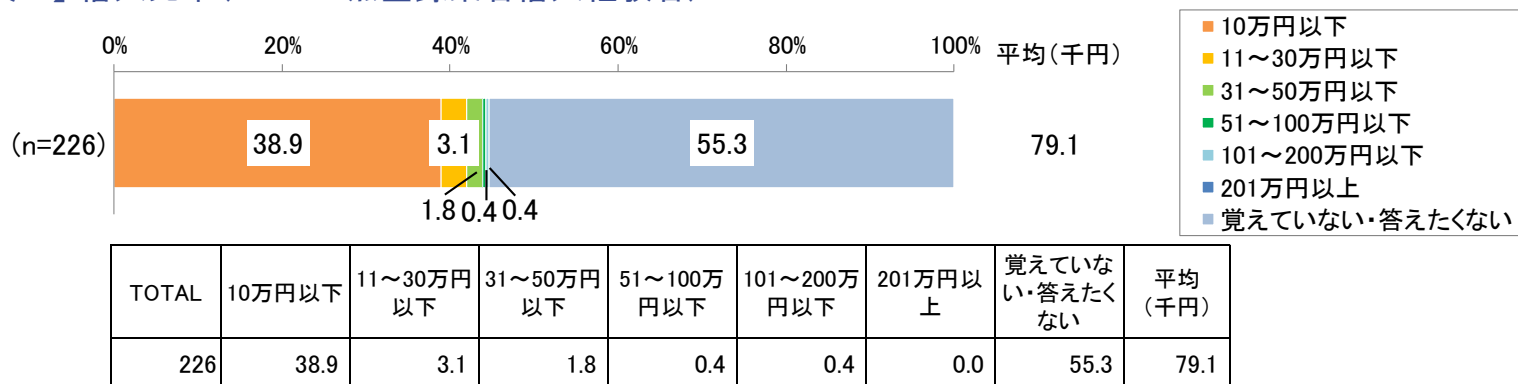


II. 調査結果のまとめ

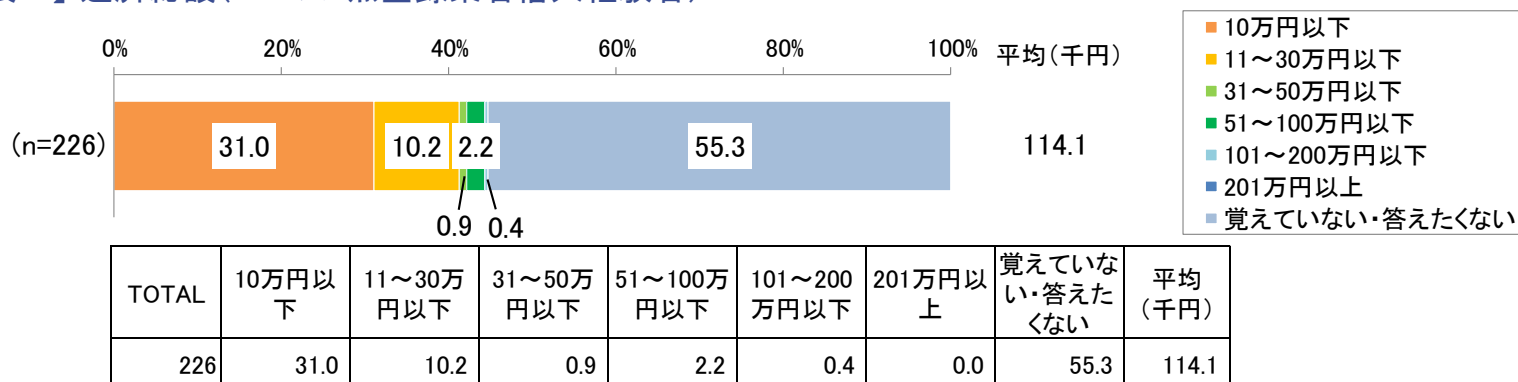
『無登録業者(ヤミ金融)』の利用経験

- 『無登録業者(ヤミ金融)』利用経験者の借入元本は、「1～10万円以下」が38.9%。ただし、半数以上は「覚えていない・答えたくない」と回答。(図表18)
- 『無登録業者(ヤミ金融)』利用経験者の返済総額は、「1～10万円以下」が31.0%。ただし、半数以上は「覚えていない・答えたくない」と回答。(図表19)

【図表18】借入元本(ベース:無登録業者借入経験者)



【図表19】返済総額(ベース:無登録業者借入経験者)



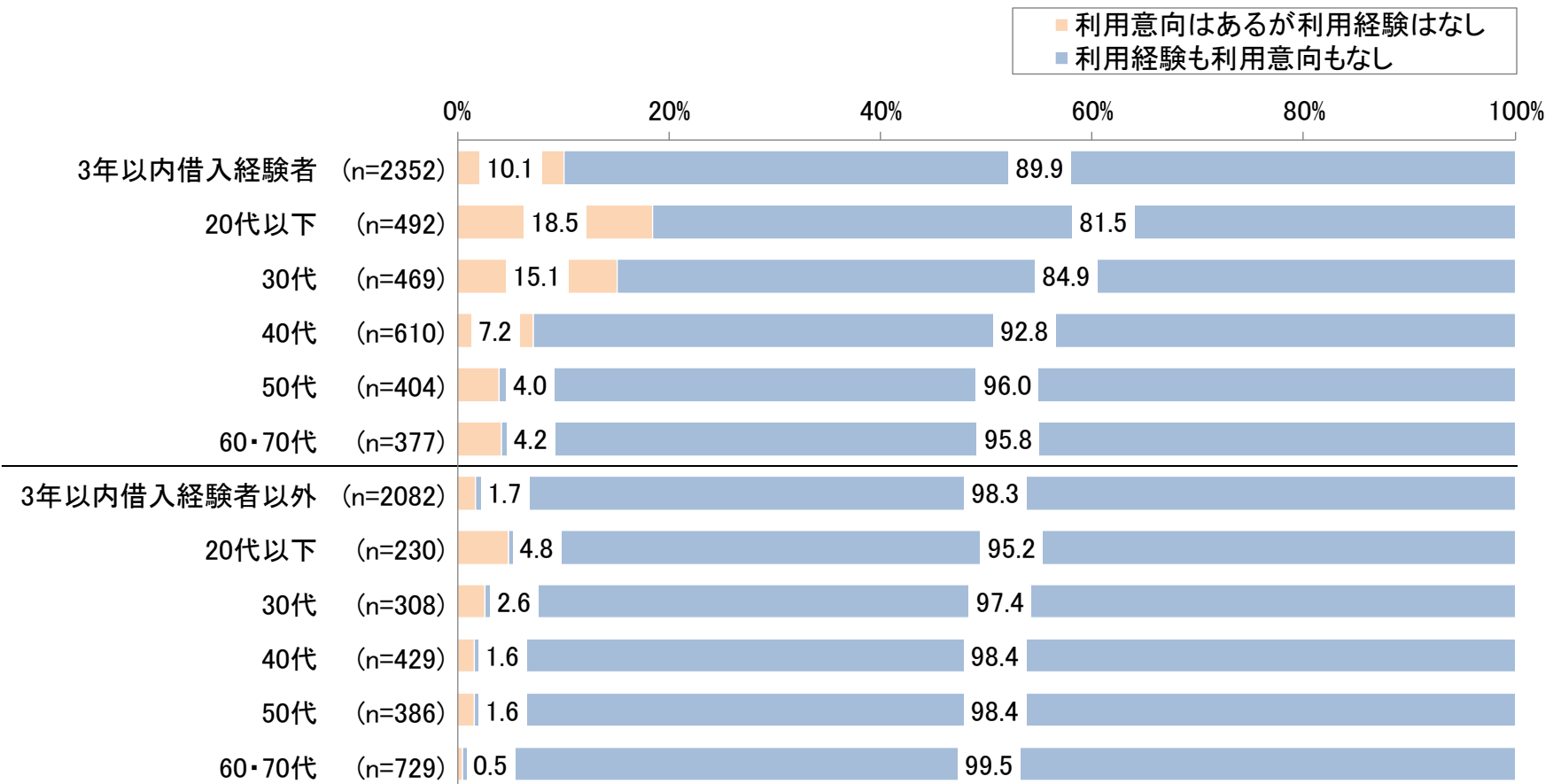
II. 調査結果のまとめ

SNSを利用した個人間融資の利用意向

■ SNS個人間融資の「利用経験はないが利用意向がある」人について、3年以内借入経験者では10.1%、年代別でみると「20代以下」が18.5%、「30代」が15.1%で年代が若いほど意向が高い。一方、3年以内借入経験者以外では1.7%で、年代別では「20代以下」が4.8%。(図表20)

【図表20】 SNSを利用した個人間融資の利用意向

(ベース: 無登録業者、クレジットカードのショッピング枠の現金化、ファクタリングのいずれか未利用者)



II. 調査結果のまとめ

『セーフティネット』※の認知

- 3年以内借入経験者における『セーフティネット』の認知は、「弁護士会、司法書士会の相談窓口」が59.7%、「法テラス、国民生活センターの相談窓口」が58.7%、「財務局や地方自治体設置の多重債務専門の相談窓口」が42.4%となっている。(図表21)
- 「借入残高が年収の1/3を超える者※」における『セーフティネット』の認知も3年以内借入経験者と類似傾向が見られ、「弁護士会、司法書士会の相談窓口」が61.7%で最も高く、「法テラス、国民生活センターの相談窓口」は56.7%、「財務局や地方自治体設置の多重債務専門の相談窓口」が40.0%となっている。(図表21)

※制度上の総量規制の適用除外や例外については、この調査では考慮していない。

※「セーフティネット」とは、多重債務者など、金銭面で生活が苦しい状況に陥っている方を救済することを目的とした制度で、公的な機関などが相談窓口となっている。

【図表21】セーフティネット認知／詳細認知 ※「TOTAL」のみウェイトバックあり

「認知計」＝「詳細な内容まで知っていた」「聞いたことはあるが詳細な内容までは知らなかった」

	サンプル数(n)	財務局や地方自治体設置の多重債務専門の相談窓口		法テラス、国民生活センターの相談窓口		弁護士会、司法書士会の相談窓口		生活協同組合や労働金庫・信用組合による貸付制度		都道府県の社会福祉協議会が行う生活福祉資金貸付制度		貸付自粛制度	
		認知計	詳細認知	認知計	詳細認知	認知計	詳細認知	認知計	詳細認知	認知計	詳細認知	認知計	詳細認知
TOTAL	4597	24.2	3.3	44.8	7.1	47.0	6.8	20.5	3.2	17.5	3.5	12.9	2.3
3年以内借入経験者	2514	42.4	13.4	58.7	16.9	59.7	16.8	34.8	9.5	32.2	10.1	28.4	8.7
借入未経験者	1882	22.3	2.4	42.1	5.5	44.4	5.4	18.7	2.4	15.8	2.7	10.9	1.9
3年以内借入経験者のうち、借入残高が年収の1/3を超える者 ※残高あり	423	40.0	14.2	56.7	16.8	61.7	18.7	31.2	7.1	31.7	11.6	25.8	6.6
3年以内借入経験者のうち、借入残高が年収の1/3以下の者 ※残高あり	1537	45.5	14.0	60.7	17.8	61.3	18.1	37.1	11.0	34.2	11.0	31.2	10.1

(%)

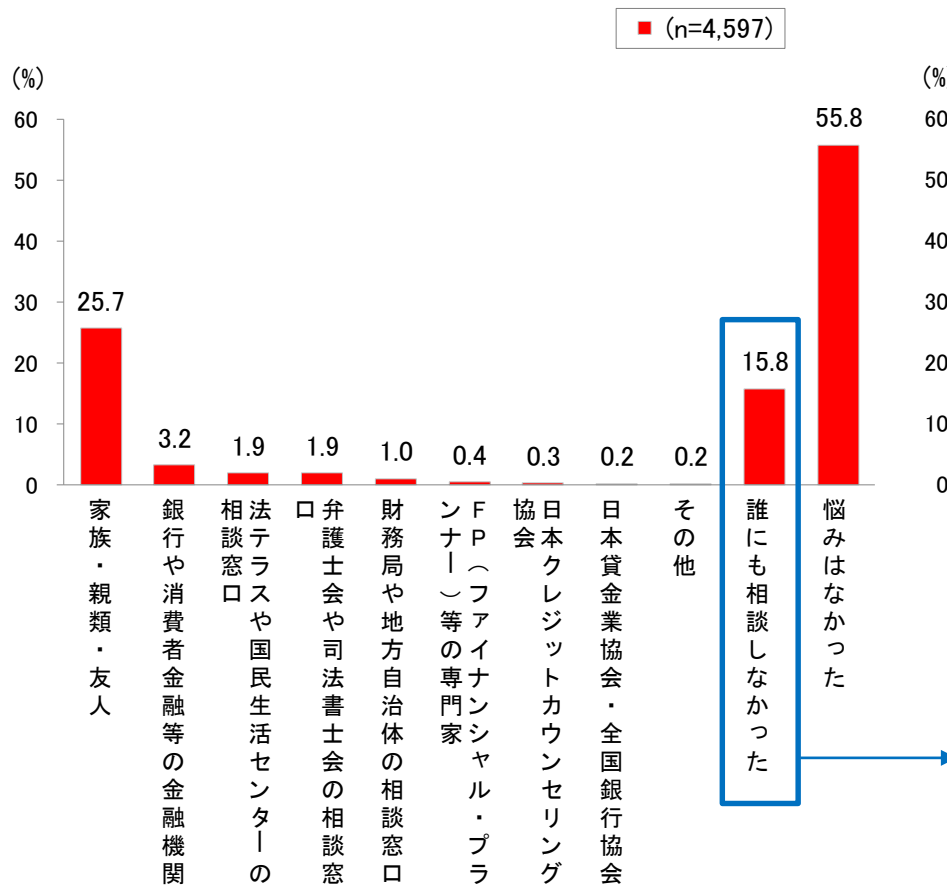
II. 調査結果のまとめ

家計や借入れの悩み相談先

- 全体では、家計や借入れの悩みの相談先として「家族・親類・友人」が25.7%で最も高い。ただし、「悩みはなかった」が55.8%。(図表22)
- 相談しなかった理由として「相談する必要性を感じなかったから」が47.3%で最多。(図表23)

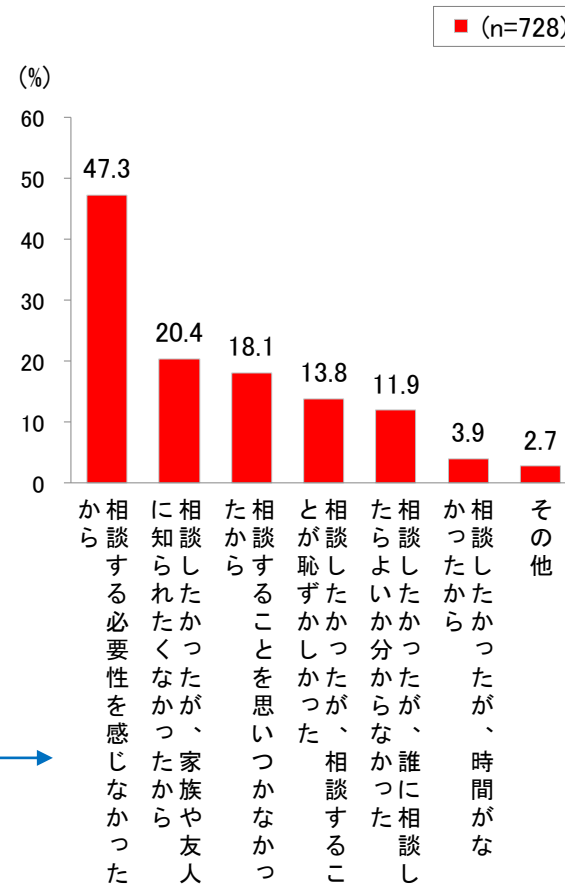
【図表22】家計や借入れの悩み相談先(ベース:全数)

※ウェイトバックあり



【図表23】相談しなかった理由(ベース:相談なし)

※ウェイトバックあり

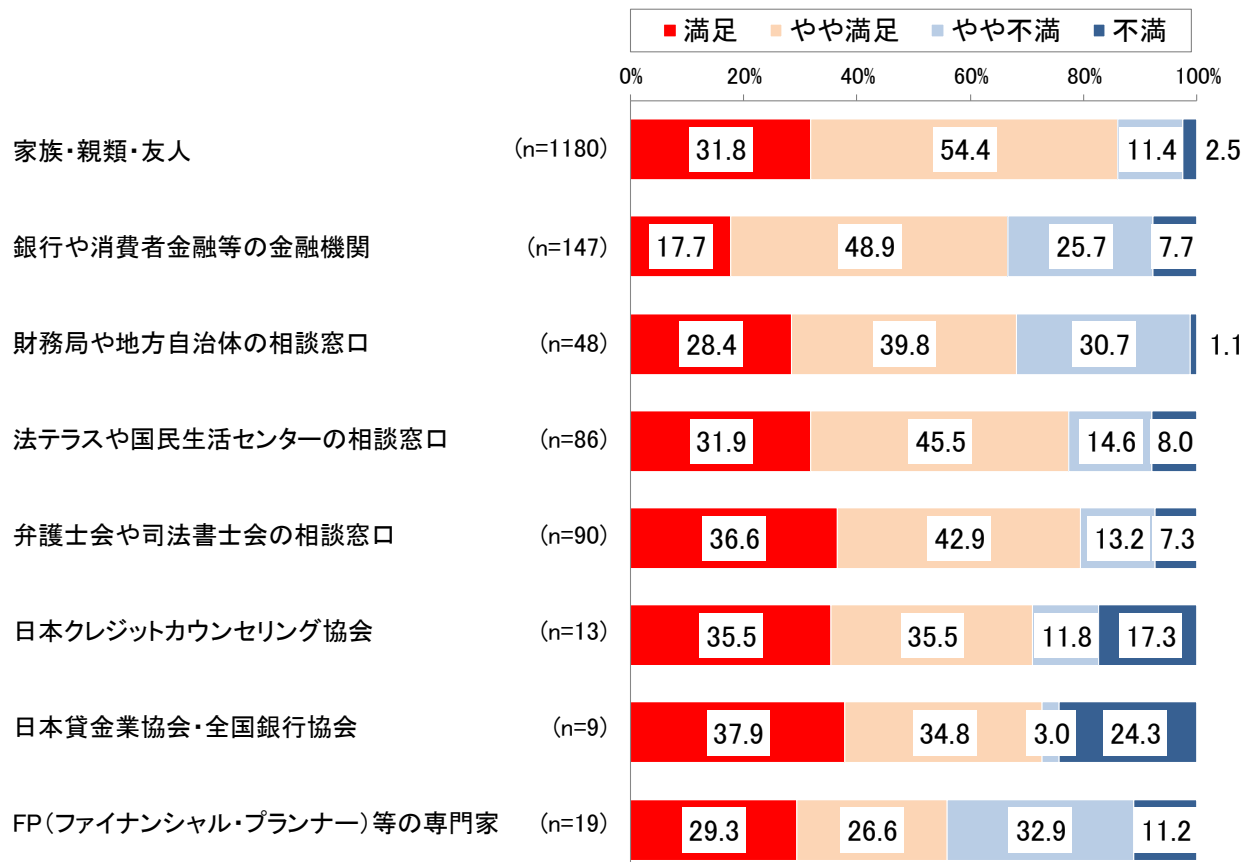


II. 調査結果のまとめ

家計や借入れの悩み相談先満足度

■ 家計や借入れの悩み相談先の満足度のうち、家計や借入れの悩みを相談した先への満足度について、「満足した」の数値を見ると、「弁護士会や司法書士会の相談窓口」は36.6%（相談者nが30以上）。（図表24）

【図表24】家計や借入れの悩み相談先の満足度（ベース：各相談先への相談者） ※ウェイトバックあり

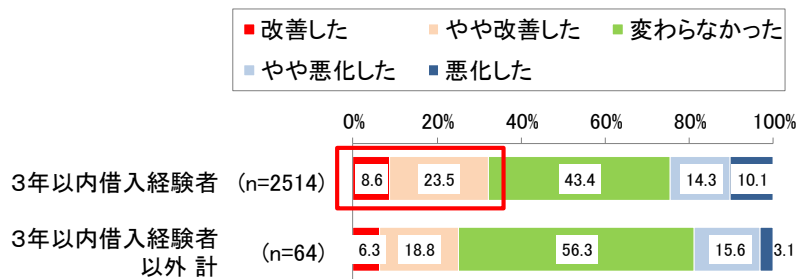


II. 調査結果のまとめ

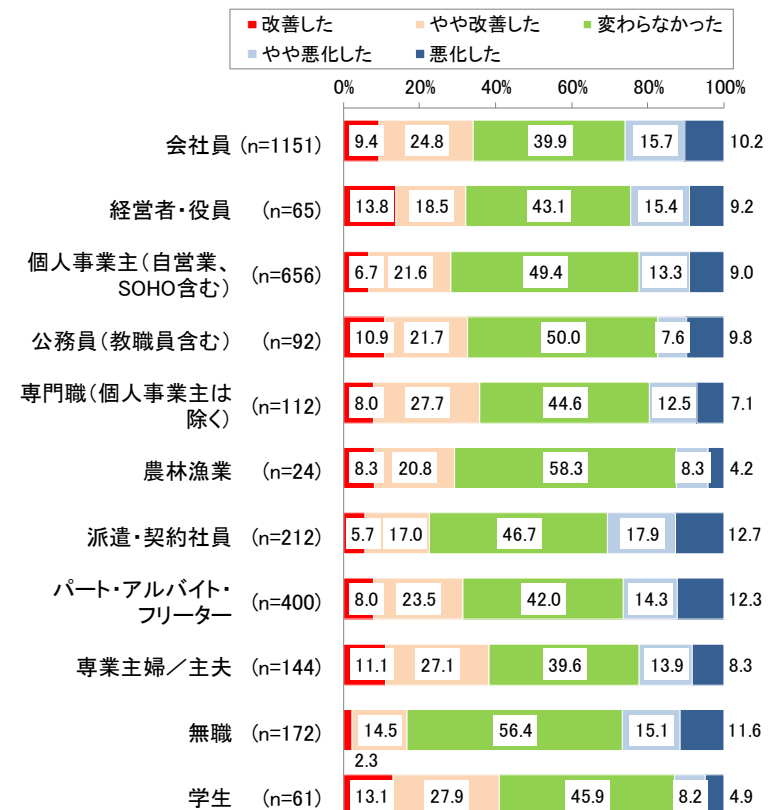
最近3年以内各種ローン利用後の家計変化

- 最近3年以内に各種ローン利用後の家計変化については、3年以内借入経験者では「改善した」「やや改善した」を合わせると32.1%。(図表25)
- 3年以内借入経験者において、職業別で見ると、「学生」が他に比べて改善した割合(「改善した」と「やや改善した」の合計)が高い。一方、「無職」は他に比べて改善した割合が低い。(図表26)

【図表25】最近3年以内各種ローン利用後の家計変化



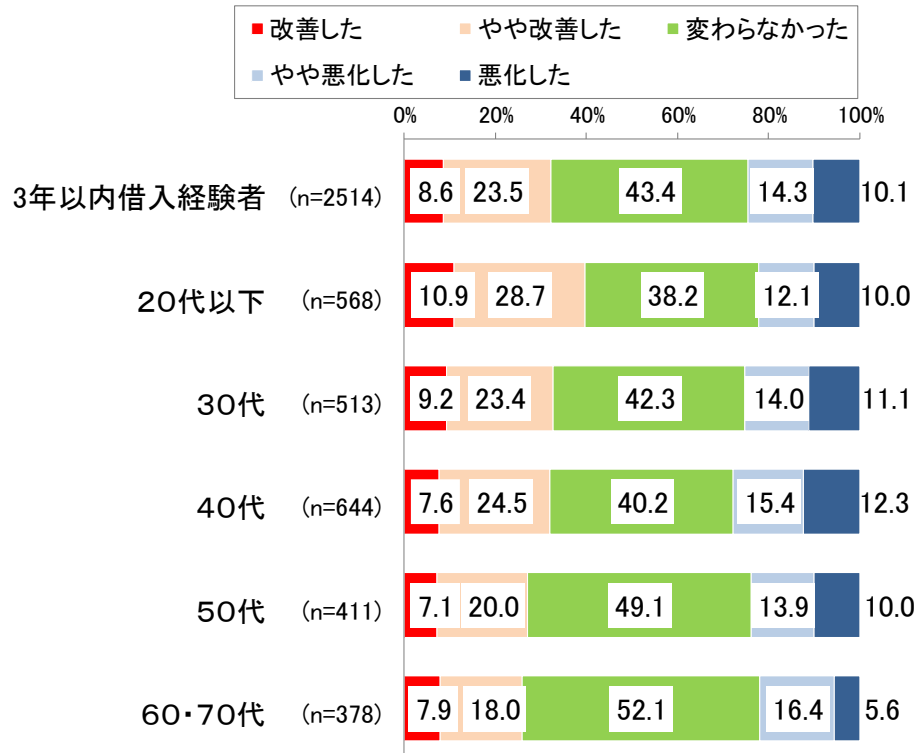
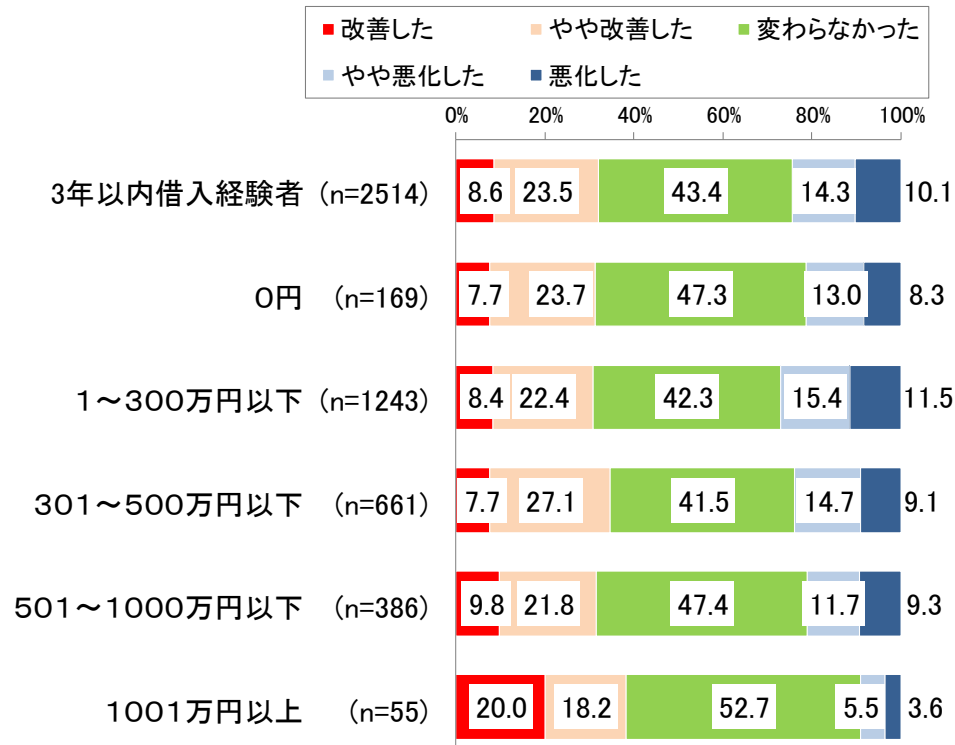
【図表26】最近3年以内各種ローン利用後の家計変化 職業別 (ベース:3年以内借入経験者)



II. 調査結果のまとめ

各種ローン利用後の家計変化：年代別／年収別

- 3年以内借入経験者の各種ローン利用後の家計変化については、年代別に見ると、「20代」は「改善した」と「やや改善した」の合計が他よりも高い。(図表27)
- 年収別に見ると、「年収0円」に該当する者は、「改善した」と「やや改善した」の合計は同程度(「年収1001万円以上」を除く)。(図表28)

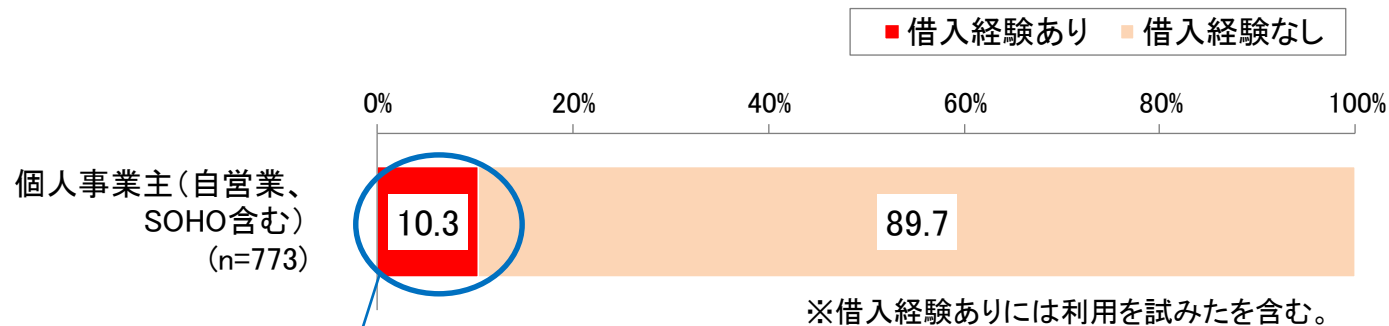
【図表27】最近3年以内に各種ローン利用後の家計変化 年代別
(ベース:3年以内借入経験者)【図表28】最近3年以内各種ローン利用後の家計変化 年収別
(ベース:3年以内借入経験者)

III. 個人事業主向け調査結果のまとめ

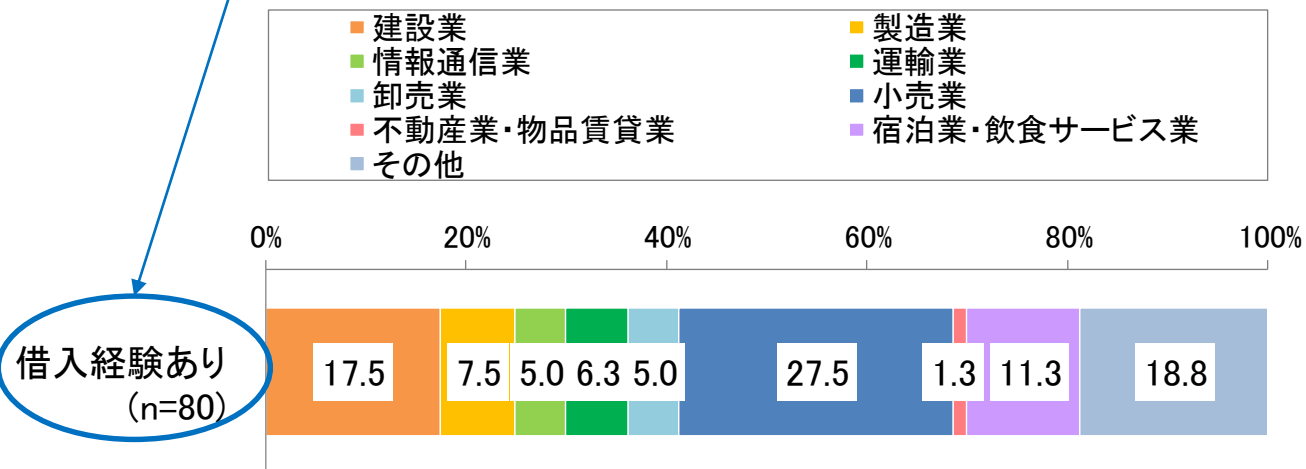
Ⅲ. 調査結果のまとめ 事業者のプロフィール

- 個人事業主で、貸金業からの事業資金の借入経験(利用意向含む)のある者は10.3%。(図表29)
- 職種別で見ると、「小売業」が27.5%と最も高く、次いで「建設業」が17.5%、「宿泊業・飲食サービス業」が11.3%と続く。(図表30)

【図表29】 事業資金の借入経験がある個人事業主のうち、貸金業から事業資金の借入経験者・利用意向者
(ベース:個人事業主)



【図表30】 業種(ベース:個人事業主のうち、事業資金借入経験者・利用意向者)

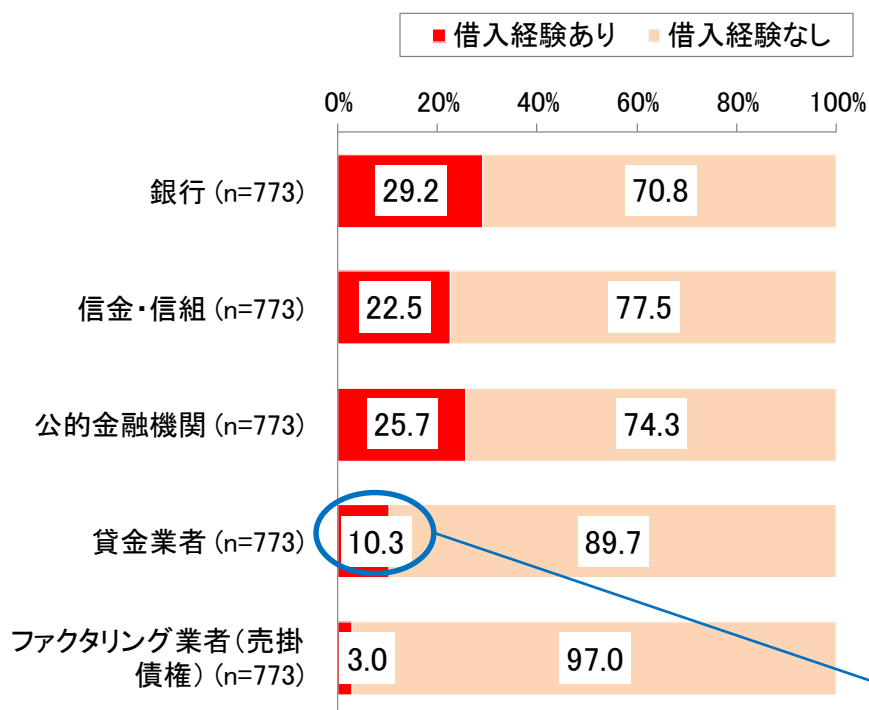


Ⅲ. 調査結果のまとめ

事業者の事業資金の借入れ等の状況

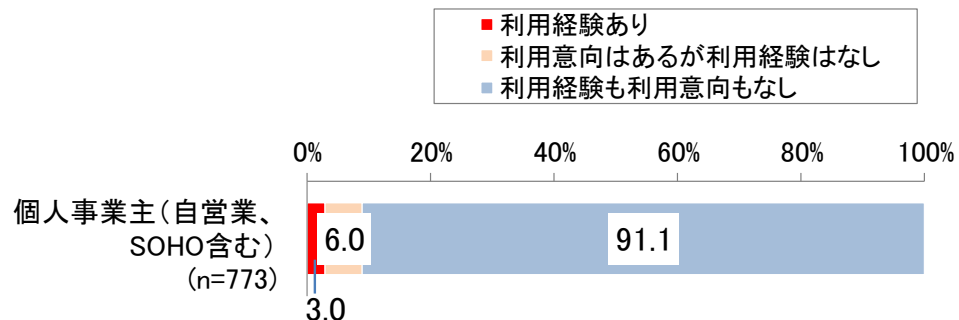
- 個人事業主の事業資金の借入先については、「銀行」が最も高く、借入経験者(利用を試みた者を含む)は29.2%、次いで「公的金融機関」25.7%。(図表31)
- 個人事業主のうち、『無登録業者(ヤミ金融)』の利用経験がある者は3.0%、利用意向はあったが利用経験はない者は6.0%。(図表32)
- 個人事業主のうち、事業資金の貸金業からの借入経験(利用意向含む)のある者で、『無登録業者(ヤミ金融)』の利用経験がある者は11.3%、利用意向はあったが利用経験はない者は21.3%。(図表33)

【図表31】 事業資金の借入経験(ベース:個人事業主)

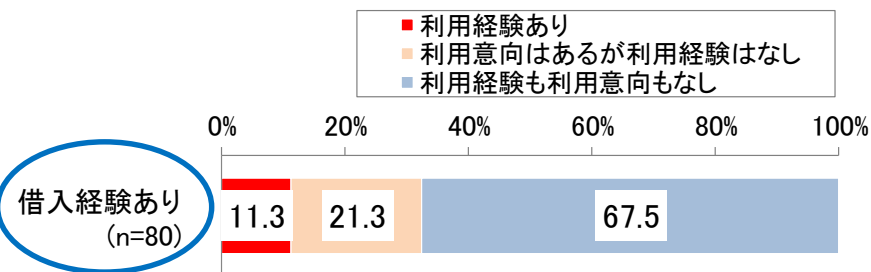


※借入経験ありには利用を試みたを含む。

【図表32】 無登録業者(ヤミ金融)の利用経験(ベース:個人事業主)



【図表33】 無登録業者(ヤミ金融)の利用経験(ベース:個人事業主のうち貸金業からの事業資金借入経験者・利用を試みた者を含む)

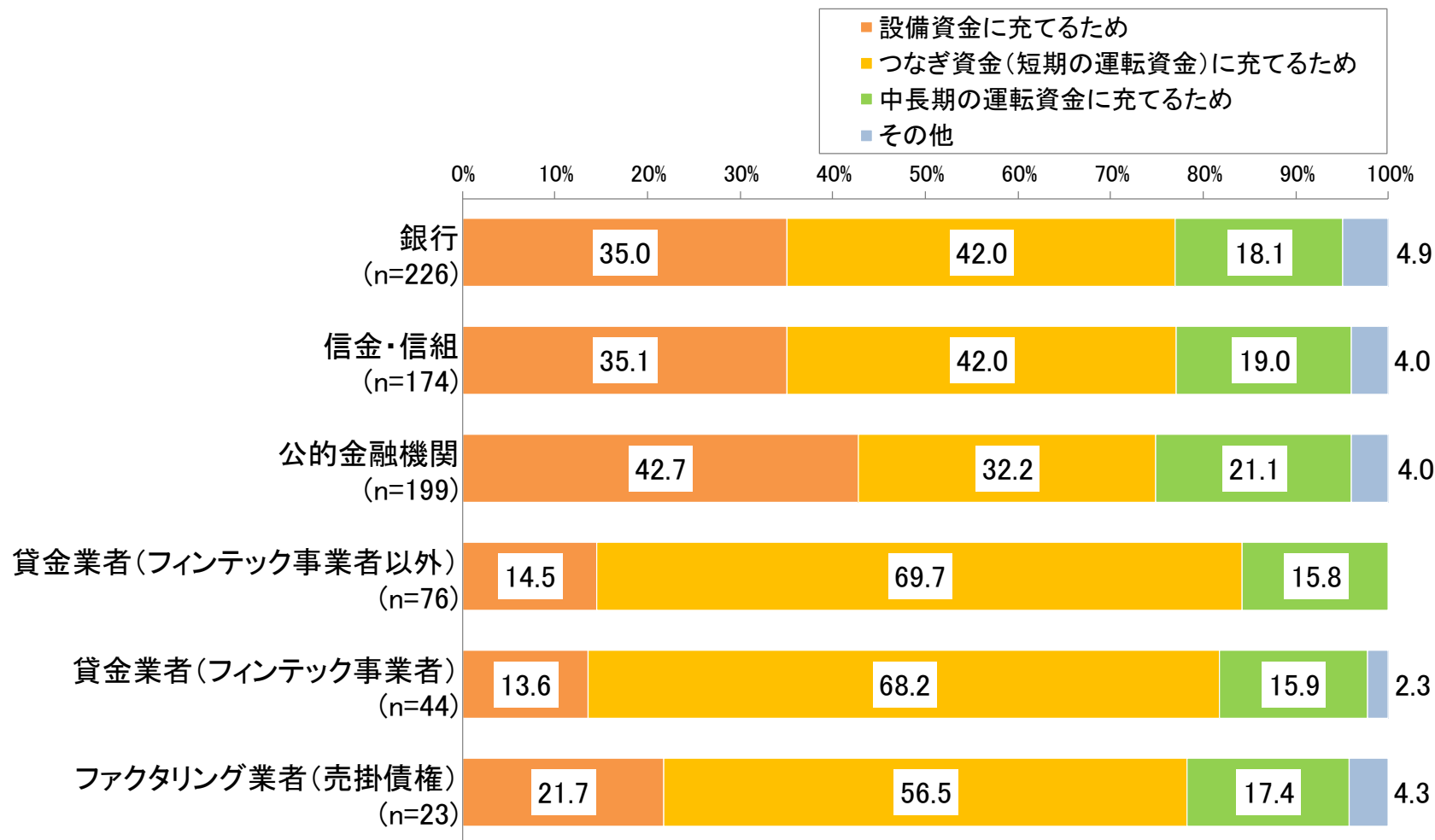


Ⅲ. 調査結果のまとめ

事業者の事業資金の借入れ等の状況

■ 事業資金の借入目的を借入先別で見ると、『貸金業者(フィンテック事業者以外)』の「つなぎ資金」が69.7%と最も高い。(図表34)

【図表34】 事業資金の借入目的(ベース:個人事業主のうち、事業資金借入経験者・利用を試みた者を含む)



IV. ギャンブル等を目的とした借入経験者の 結果まとめ

IV. 調査結果のまとめ

ギャンブル等を目的とした借入経験者のプロフィール ①

- ギャンブル等を目的とした借入経験者の年代を見ると、「40代」が31.5%と最も多く、次いで「30代」が30.0%と続き、30-40代で全体の約6割を占める。(図表35)
- ギャンブル等を目的とした借入経験者の性別を見ると、「男性」が89.3%と大半を占める。(図表36)

● 『ギャンブル等を目的とした借入経験者』

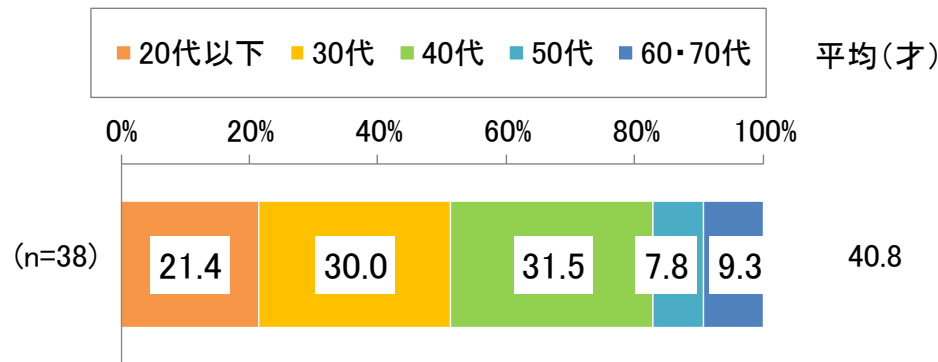
最近3年以内に、「銀行のカードローン」、「クレジットカード会社のキャッシング・カードローン」、「消費者金融からの借入れ」、「商エローン」、「手形割引業者」、「無登録業者(ヤミ金融)からの借入れ」、「クレジットカードのショッピング枠の現金化」「ファクタリング(給料債権)(売掛債権)」「奨学金」「学生ローン」のいずれかで以下を目的とした借入経験がある方。

<対象となる目的>

- ギャンブル等の元手が足りなかったため

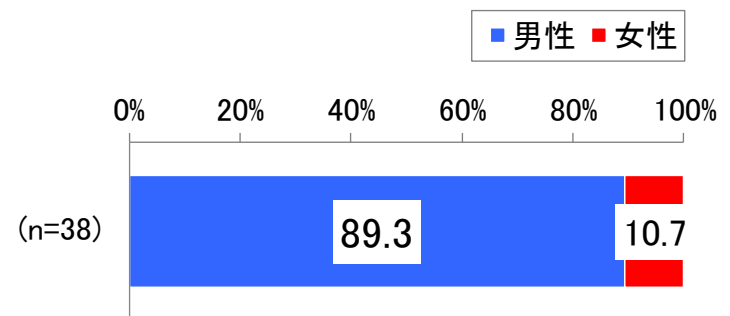
【図表35】年代(ベース:ギャンブル等を目的とした借入経験者)

※ウェイトバックあり



【図表36】性別(ベース:ギャンブル等を目的とした借入経験者)

※ウェイトバックあり

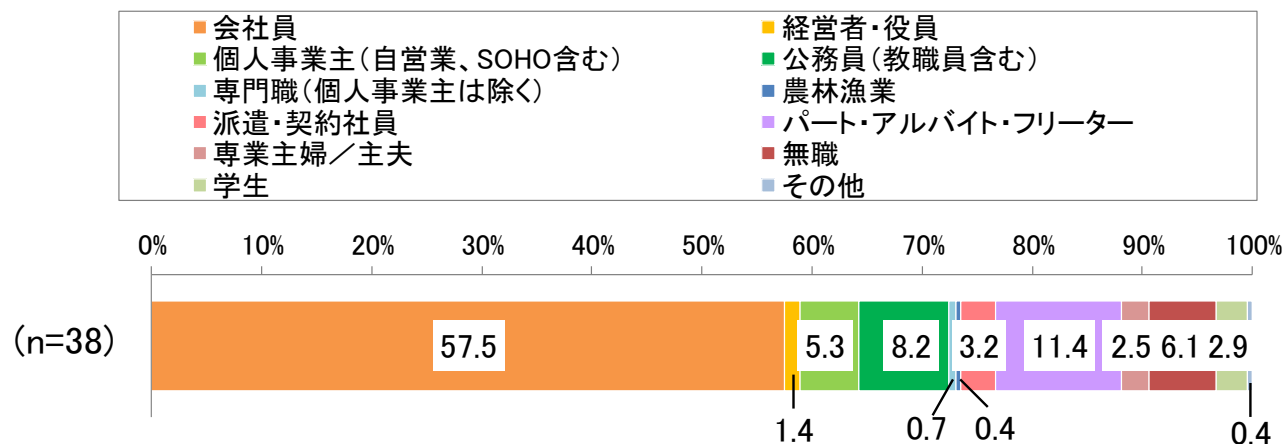


IV. 調査結果のまとめ

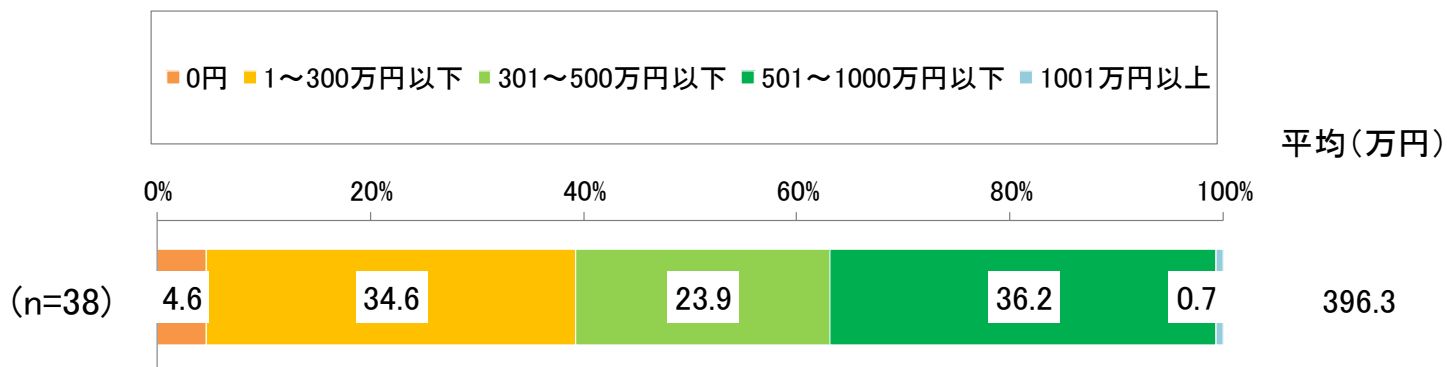
ギャンブル等を目的とした借入経験者のプロフィール ②

- ギャンブル等を目的とした借入経験者の職業は「会社員」が57.5%と最多。(図表37)。
- ギャンブル等を目的とした借入経験者の年収は「501～1000万円以下」が36.2%と最も多く、次いで「1～300万円以下」が34.6%と続く。(図表38)

【図表37】 職業(ベース:ギャンブル等を目的とした借入経験者) ※ウェイトバックあり



【図表38】 年収(ベース:ギャンブル等を目的とした借入経験者) ※ウェイトバックあり



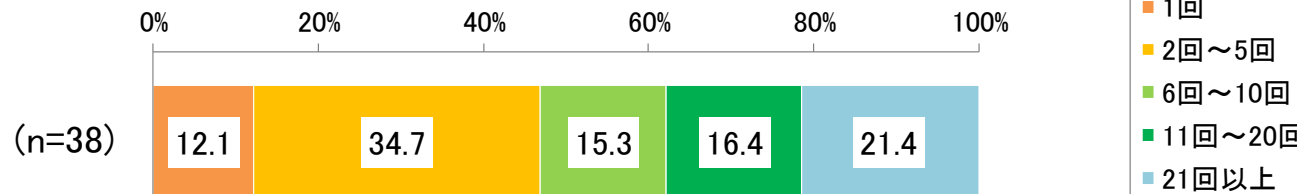
IV. 調査結果のまとめ

ギャンブル等を目的とした借入経験者の借入状況

- ギャンブル等を目的とした借入件数は「2～5回」が34.7%と最多。(図表39)
- ギャンブル等を目的とした借入れの平均金額は「1万円以上～5万円未満」が46.1%と最多。(図表40)
- ギャンブル等を目的とした借入れの残高は「10万円以上～50万円未満」が21.1%と最多。(図表41)

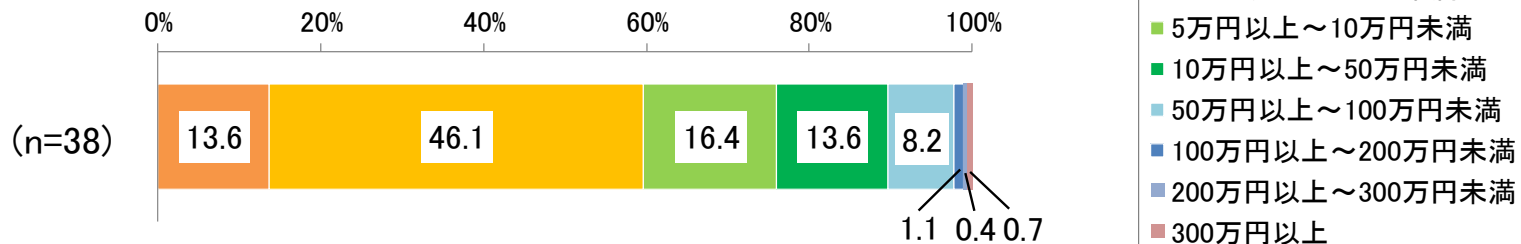
【図表39】ギャンブル等を目的とした借入回数(直近3年以内)

(ベース:ギャンブル等を目的とした借入経験者) ※ウェイトバックあり



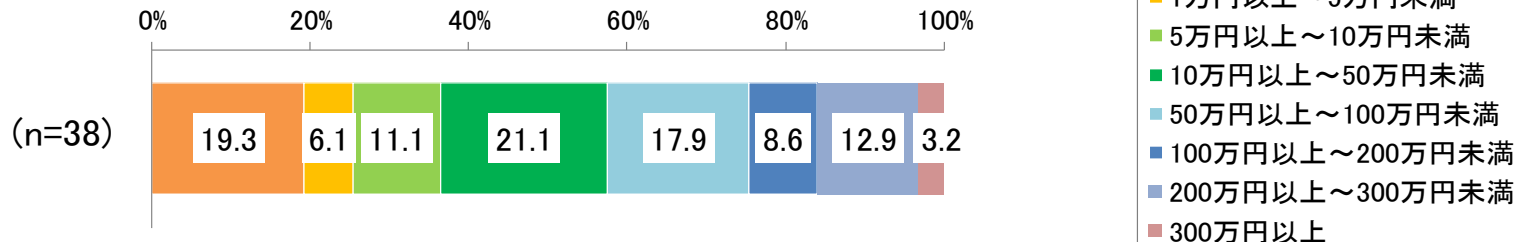
【図表40】ギャンブル等を目的とした借入れの平均金額(直近3年以内)

(ベース:ギャンブル等を目的とした借入経験者) ※ウェイトバックあり



【図表41】ギャンブル等を目的とした借入れの現在残高(直近3年以内)

(ベース:ギャンブル等を目的とした借入経験者) ※ウェイトバックあり



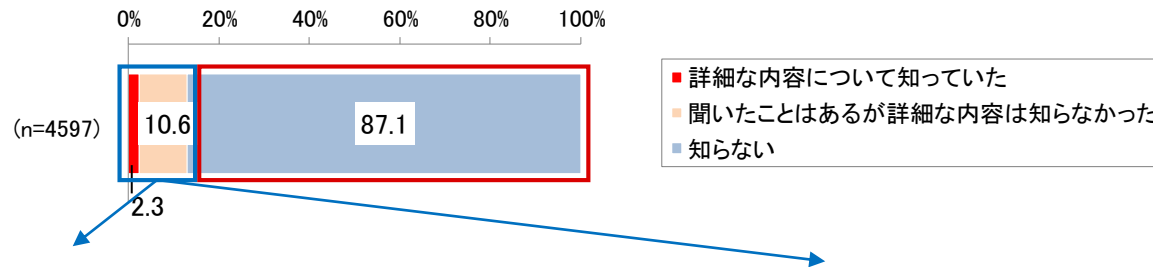
V . 貸付自粛制度の認知・利用状況の 結果まとめ

IV. 調査結果のまとめ

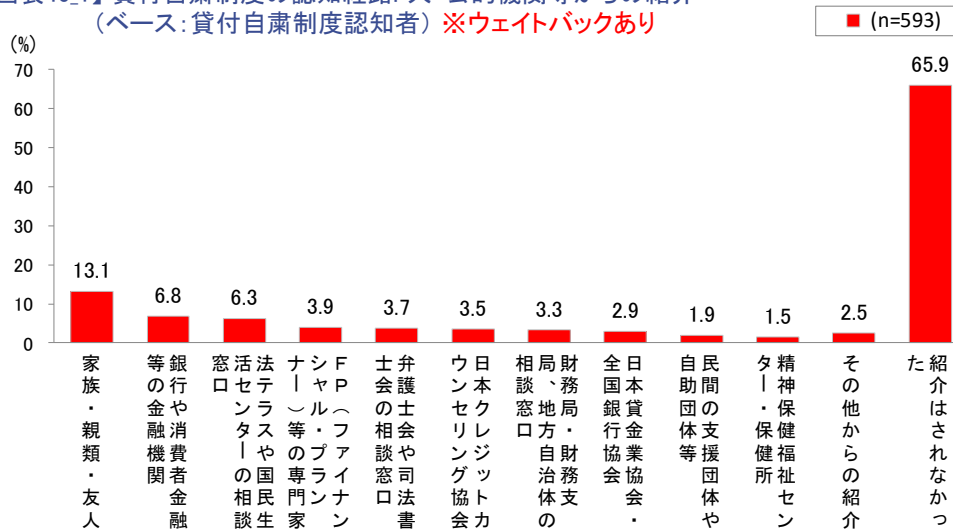
貸付自粛制度の認知状況

- 貸付自粛制度の「詳細な内容について知っていた」人は2.3%に留まる。一方「知らない」は87.1%。(図表45)
- 貸付自粛制度の認知経路(人・公的機関からの紹介)は「家族・親類・友人」が13.1%と最多。(図表46_1)
- 貸付自粛制度の認知経路(自分で調べた・掲示物等を見た)は「銀行や消費者金融等の金融機関」が13.3%と最多。(図表46_2)

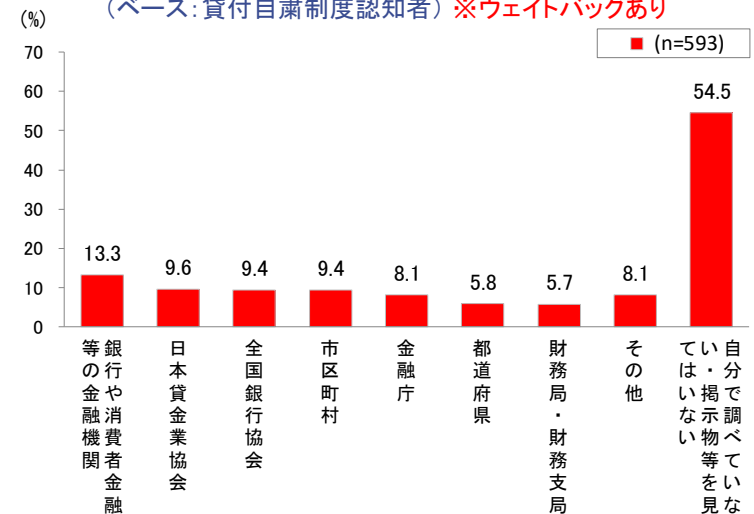
【図表45】 貸付自粛制度の認知状況(ベース:全数) ※ウェイトバックあり



【図表46_1】 貸付自粛制度の認知経路: 人・公的機関等からの紹介
(ベース: 貸付自粛制度認知者) ※ウェイトバックあり



【図表46_2】 貸付自粛制度の認知経路: 自分で調べた・掲示物等を見た
(ベース: 貸付自粛制度認知者) ※ウェイトバックあり

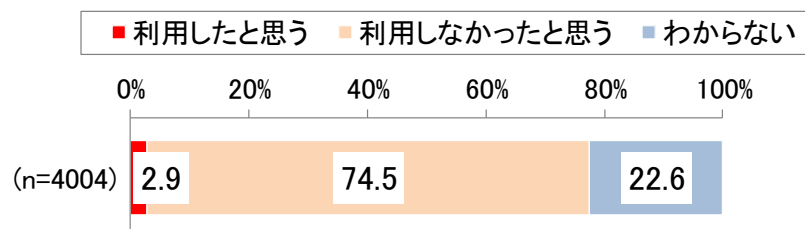


IV. 調査結果のまとめ

貸付自粛制度の利用意向

- 貸付自粛制度を知らなかった人のうち、知っていたとしても「利用しなかったと思う」が74.5%と最多。
(図表47)

【図表47】 貸付自粛制度の利用意向
(ベース: 貸付自粛制度非認知者)
※ウェイトバックあり



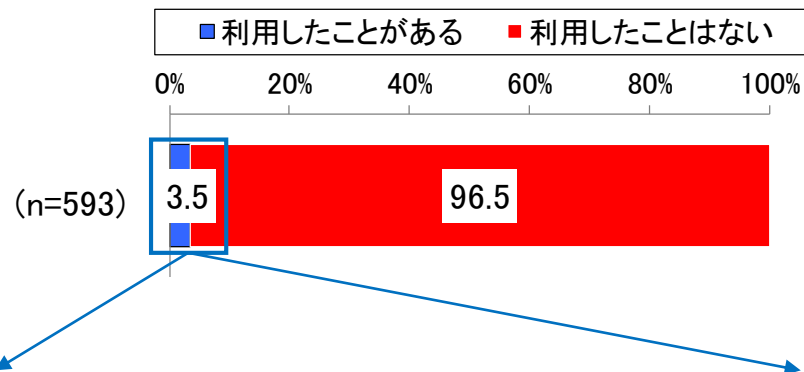
IV. 調査結果のまとめ

貸付自粛制度の利用状況

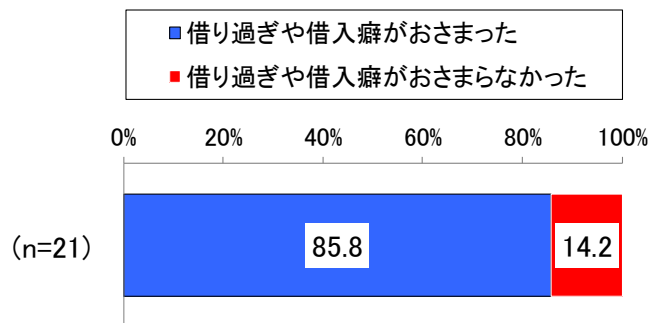
- 貸付自粛制度認知者のうち、「利用したことがある」人は3.5%。(図表48)
- 貸付自粛制度利用者のうち、借り過ぎや借入癖が「収まった」人は85.8%。(図表49)
- 貸付自粛制度利用者のうち、「撤回したことはあるが、撤回後に借入れは行っていない」人は66.5%、「撤回したことがあり、撤回後に借入れを行ったことがある」人は20.0%。(図表50)

【図表48】 貸付自粛制度の利用状況（ベース：貸付自粛制度認知者）

※ウェイトバックあり

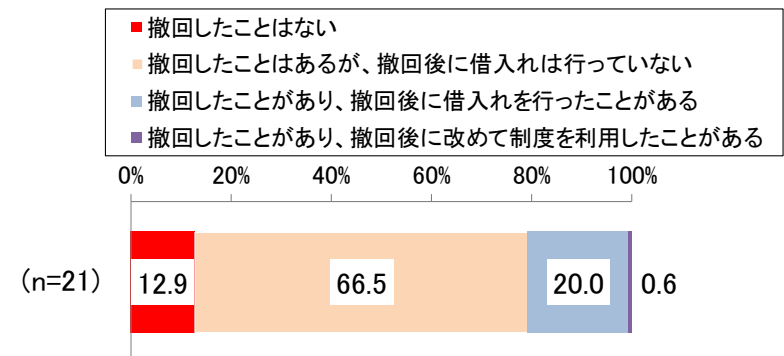


【図表49】 貸付自粛制度利用による、借り過ぎ・借入癖の抑制効果
（ベース：貸付自粛制度利用者） ※ウェイトバックあり



【図表50】 貸付自粛制度の撤回状況（ベース：貸付自粛制度利用者）

※ウェイトバックあり

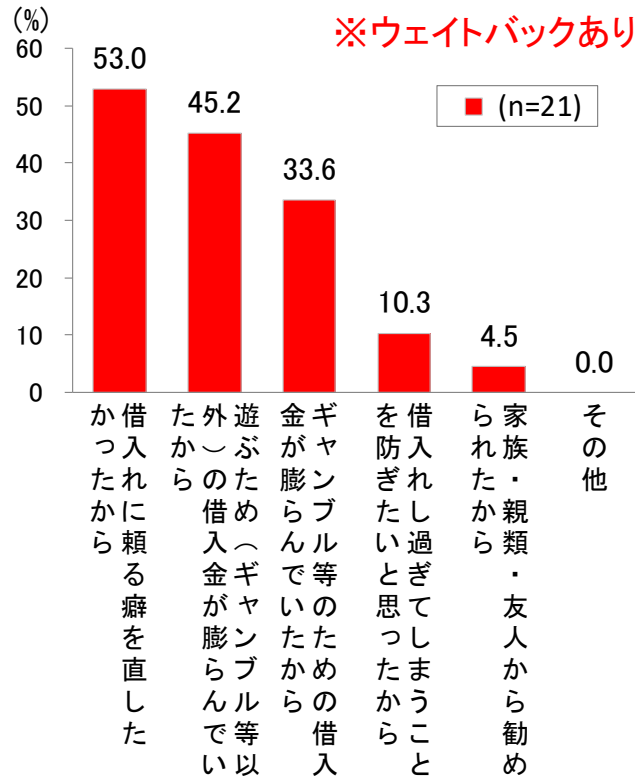


IV. 調査結果のまとめ

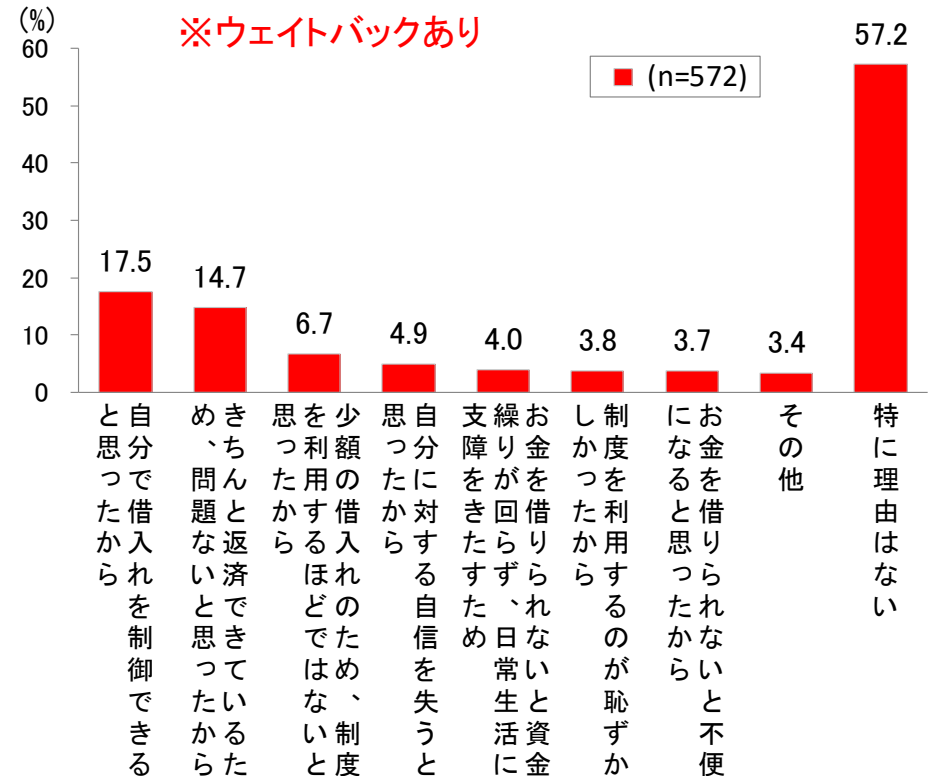
貸付自粛制度の利用・非利用理由

- 貸付自粛制度の利用理由は「借入に頼る癖を直したから」が53.0%と最も多く、次いで「遊ぶための借入金が膨らんでいたから」が45.2%。（図表51）
- 貸付自粛制度を利用しない理由は、「特に理由がない」が57.2%と最も多く、次いで「自分で借入を制御できると思ったから」が17.5%。（図表52）

【図表51】 貸付自粛制度の利用理由
（ベース：貸付自粛制度利用者）



【図表52】 貸付自粛制度の非利用理由
（ベース：貸付自粛制度の認知者、かつ制度非利用者）





Create Consumer-centric Values

お客様企業のマーケティングに寄り添い、共に生活者の幸せを実現する

株式会社インテージ